

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜基礎分野＞ モラル学	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	患者、利用者と等との良好な人間関係の構築を目的として、人の心理について発達、性格、知能などの要素の基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。また、社会の基本的な考え方を理解し、現代社会の特質と社会との関わりについて学ぶ。				
到達目標	1. 対象者の心理を理解し、それぞれの問題や障害に対する対処法を考え、実践することができる。 2. 現代社会の特質を踏まえ、社会と個人との関わりについて説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション				
2 回	特別講義：社会人基礎力・自己理解・キャリアビジョンについて①				
3 回	特別講義：社会人基礎力・自己理解・キャリアビジョンについて②				
4 回	特別講義：ビジネスマナー講座				
5 回	特別講義：インターネットモラルについて				
6 回	特別講義：交通安全モラルについて				
7 回	特別講義：危険薬物について				
8 回	まとめ				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		疑問に感じたことがあればいつでも質問すること。 授業内容に関連する事項などを図書館やインターネットで調べてみること。			
成績評価方法		レポートの提出を以って単位を認定する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<基礎分野> 情報処理学	今野清	作業療法学科 1 年	演習・講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	作業療法業務に用いるパソコン理論、ワード・エクセル・パワーポイントの活用法について学ぶ。				
到達目標	1. 情報処理の基礎を身につけ、実際に活用できる。 2. Word、Excel、PowerPoint を活用して簡単なプレゼンテーションができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	情報倫理の社会との関わり 医療業務における情報管理				
2 回	知的財産権 ウイルスとその防止法 本校コンピュータの起動と停止法				
3 回	Windows の基本操作 デスクトップ、エクスプローラの操作、タスクバーによる動作設定 USB メモリーの活用 キー入力実習 スキャナーの基本操作 Photoshop の使い方				
4 回	Word の基本 ワードプロとしての操作 文書作成時の約束事キー操作、ツールでのキー入力実習 数式エディタの活用 印刷処理実習				
5 回	Word 日本語辞書の活用 キー操作ツールでのキー入力 実習図形作成の基礎 図形ソフトの活用				
6 回	Word オートシェイプ機能実習 公文書作成の基礎実習				
7 回	Word 画像イメージの取り込みと編集				
8 回	表計算ソフト Excel の機能と歴史 Excel によるデータ処理の基礎				
9 回	Excel 罫線処理 自動計算機能の操作 縦横データの集計				
10 回	Excel データのソーティング処理と成績処理				
11 回	Word と Excel 間のデータ交換、Excel でのグラフ表示の基礎				
12 回	Excel の関数活用その 1 (SUM MAX MIN AVERAGE RANK 等)				
13 回	Excel の関数活用その 2 (IF 関数 COUNT 関数)				
14 回	プレゼンテーションの基本概念 パワーポイントの基礎操作				
15 回	課題によるプレゼンテーションの制作				
16 回	情報倫理と医療業務 情報機器の活用 著作権の理解 医療現場と情報処理				
17 回	公文書の応用作成 論文形式文書の作成 文書形態の種類と理解				
18 回	MS ペイントの操作と図形ファイル作成 スキャナー応用活用				
19 回	スキャナーの応用活用 Photoshop Elements の応用操作 取り込みデータの修正と保存				
20 回	スキャナーの応用活用によるデータの複合（画像と文字列、グラフ） 画像取り込み文書の作成				
21 回	Word による地図作成とオフィスの配置設計				
22 回	Word 文書と Excel 連係による各種ファイルの作成				
23 回	イメージファイルの作成と差込み印刷オートシェイプの応用（流れ図、ブロック図作成）				
24 回	差込み印刷による葉書 宛名ラベルへの印刷 年賀状葉書の作成				
25 回	表計算ソフト Excel の応用 住所録データ検索技法（オートフィルタの操作）				
26 回	成績表作成 1（順位付け、並べ替え、COUNTIF） グラフ機能と他文書への貼り付け				
27 回	成績表作成 2（データ検索、段階付け、欠席処理、重み付け処理）				
28 回	関数処理の応用（VLOOKUP コマンドの実践）ピボット処理アンケート処理				
29 回	パワーポイントの応用 パワーポイントのイメージツールの活用 アニメーションの設定				
30 回	プレゼンテーション作成 スライドショー ホームページの制作				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	疑問に思った点について、質問する習慣をつけること。 必ず授業で学んだ内容を復習すること。				
成績評価方法	実技試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 国語表現法	藤田洋治	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	レポートや論文等を作成するための基本的な日本語に関する文法や、文章作成の工夫、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方等を学ぶ。また日常生活における手紙などを題材として、実際に文章を作成しながら正しい日本語について学ぶ。				
到達目標	1.適切な日本語での表現ができる。 2.レポートや論文が作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	言葉の働きについて考える				
2 回	文脈にふさわしい語句を使う（1）				
3 回	文脈にふさわしい語句を使う（2）				
4 回	手紙の知識と応用				
5 回	正確に伝えるために（1）				
6 回	正確に伝えるために（2）				
7 回	文章の構成を考える（1）				
8 回	文章の構成を考える（2）				
9 回	文章の構成を考える（3）				
10 回	説得力のある文章を書く（1）				
11 回	説得力のある文章を書く（2）				
12 回	自分の意見を書く（1）				
13 回	自分の意見を書く（2）				
14 回	レポート・論文を書く際の心得（1）				
15 回	レポート・論文を書く際の心得（2）				
教科書及び参考書	日本語表現&コミュニケーションー社会を生きるための 21 のワーカー、実教出版				
時間外学修及び留意事項	授業で学んだ内容をその都度復習すること。				
成績評価方法	毎回の提出物（80％）、最終の小論文（20％）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<基礎分野> 体育実技	鬼海博行	作業療法学科1年	実技	単位・時間	2・90
				実務家教員	
授業概要	様々な運動やスポーツの実践を通し、健康に関する知識や理解を深め、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を学ぶ。				
到達目標	1. 健康や運動についての理解と実践を通し運動に親しむことができる。 2. 集団活動を通し、お互いを尊重し、協調・協力し合うことに配慮できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1回 ～ 45回	バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球などを選択制で行う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	身体活動が行えるジャージ等を準備する。 屋内で活動するときは、体育館シューズを準備する。				
成績評価方法	実技等を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 総合英語 I	豊嶋美由紀	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	高校までの学習をもとに、基礎レベルのリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの四技能を学ぶ。各 Unit 終了後小テストを行う。総合的な視野を広めるための知識を英語を通して身に付ける。				
到達目標	1. 高校までに学習した文法事項をもう一度おさらいして、簡単な英文の読み書きができる。 2. 英語の四技能をバランス良く学び、日常表現から易しいビジネス表現にも触れる。 3. 来年の医学英語を学習するための英語の基礎知識を習得する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション、自己紹介				
2 回	Unit 1 Nice to Meet You				
3 回	現在時制（be 動詞と一般動詞）				
4 回	Unit 2 Getting Started				
5 回	代名詞				
6 回	Unit 3 Office Tower				
7 回	前置詞（場所を表す前置詞と時を表す前置詞）				
8 回	Unit 4 Frist Work Assignment				
9 回	名詞（加算名詞、不可算名詞）				
10 回	Unit 5 Small Talk with Co-Workers				
11 回	過去時制（be 動詞と一般動詞）				
12 回	Unit 6 First Contact with a Client				
13 回	助動詞				
14 回	Unit 7 Client Meeting Preparation				
15 回	試験とまとめ				
教科書及び参考書	English Spark！新社会人生活から学ぶ大学基礎英語 金星堂				
時間外学修及び留意事項	予習復習を欠かさないこと。テキストに答えは書き込まず、ノートに書くようにすること。ユニットごとに小テストがあるので予習はもちろん復習を欠かさないこと。個人的に質問がある場合は授業終了時に直接聞くこと。 辞書は必携。紙辞書、電子辞書、高校までに使っていたものを使用してよい。参考書は高校で使用のものがあればそれを使ってよい。手持ちがなく、新しく購入したい人には紹介する。 ※総合英語 FACTBOOK これからの英文法（NEW EDITION）桐原書店 授業時にお見せしますので、欲しい人は各自注文してください。				
成績評価方法	小テスト（授業態度、参加度を含む）（10%）、期末試験（90%）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜基礎分野＞ 総合英語Ⅱ	豊嶋美由紀	理学療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	前期に続き、高校までの学習をもとに総合的な学習を目指す。英語を通して世界で話題になっている項目にも目を通す。各ユニット終了後小テストを行う。				
到達目標	1. 高校までに学習した文法事項をもう一度おさらいして、簡単な英文の読み書きができる。 2. 英語の四技能をバランス良く学び、日常表現から易しいビジネス表現にも触れる。 3. 来年の医学英語を学習するための英語の基礎知識を身に付ける。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	Unit 8 Final Preparation				
2 回	進行形（現在進行形と過去進行形）				
3 回	Unit 9 First Meeting				
4 回	WH 疑問文				
5 回	Unit 10 Time Management				
6 回	不定詞と動名詞				
7 回	Unit 11 Meeting Follow-Up				
8 回	現在完了形				
9 回	Unit 12 A Last-Minute Request				
10 回	比較級と最上級				
11 回	Unit 13 Giving Feedback				
12 回	接続詞（等位接続詞と従属接続詞）				
13 回	Unit 14 Final Steps				
14 回	受動態				
15 回	試験とまとめ				
教科書及び参考書	English Spark！新社会人生活から学ぶ大学基礎英語 金星堂				
時間外学修及び留意事項	予習復習を欠かさないこと。テキストに答えは書き込まず、ノートに書くようにすること。ユニットごとに小テストがあるので予習はもちろん復習を欠かさないこと。個人的に質問がある場合は授業終了時に直接聞くこと。 辞書は必携。紙辞書、電子辞書、高校までに使っていたものを使用してよい。参考書は高校で使用するものがあればそれを使ってよい。手持ちがなく、新しく購入したい人には紹介します。				
成績評価方法	小テスト（授業態度、参加度を含む）（10%）、期末試験（90%）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 医学英語	豊嶋美由紀	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションに関連する医療系英文の読解力向上を目指す。				
到達目標	1. リハビリテーションに関連する医学用語や略語が説明できる。 2. リハビリテーションに関連する英文を読み内容が把握できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション（英論文を読むことの必要性）				
2 回	Higher Brain Dysfunction（高次脳機能障害）				
3 回	Parkinson's Disease（パーキンソン病）				
4 回	Osteoporosis（骨粗鬆症）				
5 回	Cerebral Apoplexy（脳卒中）				
6 回	Cardiovascular Disease（循環器疾患）				
7 回	Diabetes Mellitus（糖尿病）				
8 回	Respiratory Disease（呼吸器疾患）				
9 回	Chronic Rheumatoid Arthritis（慢性関節リウマチ）				
10 回	Femoral Neck Fractures（大腿骨頸部骨折）				
11 回	Spinal Cord Injuries（脊髄損傷）				
12 回	Cerebral Palsy（脳性麻痺）				
13 回	英文抄読（最新論文）				
14 回	英文抄読（最新論文）				
15 回	英文抄読（最新論文）				
教科書及び参考書	The Art of Healing、南雲堂 英和辞書				
時間外学修及び留意事項	各授業の最後に次の回までに予習すべき内容を伝えるので、授業で学んだ内容を復習したうえでテキストを読んでくること。 毎週、巻末の症状集を小テスト行う。前の週に予告するので覚えてくること。 基本的に各章ごとに学習するが、内容によっては学習する章の順番が変わることがあります。その場合あらかじめ指示を出しますので、それに従ってください。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<基礎分野> 人間関係論	阿部晃司 大村一史 石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・30
	実務家教員				
授業概要	患者、利用者と等との良好な人間関係の構築を目的として、人の心理について発達、性格、知能などの要素の基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。また、社会の基本的な考え方を理解し、現代社会の特質と社会との関わりについて学ぶ。				
到達目標	1. 対象者の心理を理解し、それぞれの問題や障害に対する対処法を考え、実践することができる。 2. 現代社会の特質を踏まえ、社会と個人との関わりについて説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	イントロダクション 良好な人間関係とは				
2 回	社会における社会と個人				
3 回	働く（1） 「働くこと」の社会的な位置づけ				
4 回	働く（2） 「社会」のなかで働くこと				
5 回	家族（1） 近代化は家族をどう変えてきたのか				
6 回	家族（2） 家族であるとはどのようなことか				
7 回	病い・老い（1） 統計学は医療とどうかかわってきたか				
8 回	病い・老い（2） 病むこと・老いることは、どのような経験か				
9 回	心理学と心の進化				
10 回	心の発達とライフサイクル				
11 回	動機づけと情動				
12 回	性格と知能				
13 回	ストレスとメンタルヘルス				
14 回	カウンセリングと心理療法				
15 回	社会のなかの人				
教科書及び参考書	資料配布 はじめて出会う心理学 改訂版、 有斐閣アルマ				
時間外学修及び留意事項	事前配布の資料をよく読んでおくこと。 授業で使用した資料をよく読み返し理解しておくこと。 授業内容に関連する事項などを図書館やインターネットで調べてみること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 基礎解剖生理学	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	3・90
				実務家教員	
授業概要	人体の構造や各器官の機能について学修する。				
到達目標	1. 人体および各器官の形態的特徴が説明できる。 2. 人体のもつ、働き（機能）が説明できる。 3. 人体構造（解剖学）と人体機能（生理学）のつながりが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類①		23 回	消化器系の構造と機能②	
2 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類②		24 回	消化器系の構造と機能③	
3 回	細胞の構成、細胞小器官、組織の定義と分類③		25 回	泌尿器と生殖器系の構造と機能①	
4 回	筋組織、神経組織、皮膚などの構造と機能①		26 回	泌尿器と生殖器系の構造と機能②	
5 回	筋組織、神経組織、皮膚などの構造と機能②		27 回	泌尿器と生殖器系の構造と機能③	
6 回	筋組織、神経組織、皮膚などの構造と機能③		28 回	神経系の基本構造①	
7 回	骨格、関節、靱帯、骨格筋、腱などの構造と機能①		29 回	神経系の基本構造②	
8 回	骨格、関節、靱帯、骨格筋、腱などの構造と機能②		30 回	神経系の基本構造③	
9 回	骨格、関節、靱帯、骨格筋、腱などの構造と機能③		31 回	脳の構造と機能①	
10 回	運動器（四肢・体幹・頭部）の構造と機能①		32 回	脳の構造と機能②	
11 回	運動器（四肢・体幹・頭部）の構造と機能②		33 回	脳の構造と機能③	
12 回	運動器（四肢・体幹・頭部）の構造と機能③		34 回	自律神経系と内分泌系の構造と機能①	
13 回	循環器系の構造と機能①		35 回	自律神経系と内分泌系の構造と機能②	
14 回	循環器系の構造と機能②		36 回	自律神経系と内分泌系の構造と機能③	
15 回	循環器系の構造と機能③		37 回	視覚器の構造と機能①	
16 回	血液、免疫系およびリンパ器官の構造と機能①		38 回	視覚器の構造と機能②	
17 回	血液、免疫系およびリンパ器官の構造と機能②		39 回	視覚器の構造と機能③	
18 回	血液、免疫系およびリンパ器官の構造と機能③		40 回	平衡聴覚器の構造と機能①	
19 回	呼吸器系の構造と機能①		41 回	平衡聴覚器の構造と機能②	
20 回	呼吸器系の構造と機能②		42 回	平衡聴覚器の構造と機能③	
21 回	呼吸器系の構造と機能③		43 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能①	
22 回	消化器系の構造と機能①		44 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能②	
			45 回	味覚器、嗅覚器の構造と機能③	
教科書及び参考書	プロメテウス解剖学 コアアトラス、 医学書院 標準理学療法学作業療法学 解剖学、 医学書院 標準理学療法学作業療法学 生理学、 医学書院 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで、 西村書店 病気がみえる Vol.7 脳・神経、メディックメディア				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 運動機能解剖学	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	骨・靱帯・関節・筋など、運動器の構造や機能について学修する。				
到達目標	1. 骨・靱帯・関節・筋の構造が説明できる。 2. 人体の構造と運動機能との関連が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	骨学総論、体表解剖、運動器総論①				
2 回	骨学総論、体表解剖、運動器総論②				
3 回	運動器総論、(筋)神経総論①				
4 回	運動器総論、(筋)神経総論②				
5 回	上肢の関節と運動①				
6 回	上肢の関節と運動②				
7 回	上肢の関節と運動③				
8 回	上肢の神経				
9 回	下肢の関節と運動①				
10 回	下肢の関節と運動②				
11 回	下肢の関節と運動③				
12 回	下肢の神経				
13 回	体幹と頭部の関節と運動、皮節と筋節①				
14 回	体幹と頭部の関節と運動、皮節と筋節②				
15 回	体幹と頭部の関節と運動、皮節と筋節③				
教科書及び参考書	プロメテウス解剖学 コアアトラス、 医学書院 標準理学療法学作業療法学 解剖学、 医学書院 基礎運動学、 医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 神経解剖生理学	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	神経系の構造と機能について学修する。				
到達目標	1. 神経の基本構造と区分、興奮の伝達と伝導が説明できる。 2. 中枢神経系を構成する脳や脊髄の各部位と構造と機能が説明できる。 3. 感覚に関する神経系の構造と機能が説明できる。 4. 運動に関する神経系の構造と機能が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	ニューロンの構造と機能				
2 回	興奮の伝達				
3 回	末梢神経の区分				
4 回	体性神経系：脳神経、脊髄神経				
5 回	自律神経系：交感神経、副交感神経				
6 回	中枢神経系の区分				
7 回	脊髄の構造と機能				
8 回	中脳・橋・延髄の構造と機能				
9 回	間脳の構造と機能				
10 回	小脳の構造と機能				
11 回	大脳の構造と機能：大脳皮質				
12 回	大脳の構造と機能：大脳基底核				
13 回	感覚：体性感覚、内臓感覚、特殊感覚				
14 回	運動および緊張：錐体路と錐体外路				
15 回	学習と記憶、覚醒と睡眠				
教科書及び参考書	病気が見える vol.7 脳・神経、メディックメディア カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで、西村書店				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 内臓解剖生理学	松澤克典	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系・内分泌系の解剖学的構造および生理学的作用について学ぶ。				
到達目標	1. 循環器系の構造と機能が説明できる。 2. 呼吸器系の構造と機能が説明できる。 3. 消化器系の構造と機能が説明できる。 4. 泌尿器系の構造と機能が説明できる。 5. 内分泌系の構造と機能が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	総論（人体の構成）				
2 回	循環器系（血管 1）				
3 回	循環器系（血管 2）				
4 回	循環器系（心臓）				
5 回	呼吸器系				
6 回	消化器系（1）				
7 回	消化器系（2）				
8 回	消化器系（3）				
9 回	栄養と代謝				
10 回	腎臓・尿路系				
11 回	内分泌系（1）				
12 回	内分泌系（2）				
13 回	内分泌系（3）				
14 回	体液・血液系				
15 回	まとめ				
教科書及び参考書	読んでわかる解剖生理学、医学教育出版社				
時間外学修及び留意事項	分からなかったこと、疑問に思った点について質問する習慣をつけて下さい。 授業内容を復習して要点を確認すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 体表解剖学実習	内海卓哉	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	
授業概要	骨、筋、腱、神経、血管などの触診の具体的な方法について実技を行いながら学修する。				
到達目標	1. 上肢において体表から確認できる骨・筋・腱・神経・血管が触診できる。 2. 下肢において体表から確認できる骨・筋・腱・神経・血管が触診できる。 3. 体幹・頸部において体表から確認できる骨・筋・腱・神経・血管が触診できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	骨、上肢帯・上肢の触診①				
2 回	骨、上肢帯・上肢の触診②				
3 回	筋、腱の触診：肩甲帯周囲筋①				
4 回	筋、腱の触診：肩甲帯周囲筋②				
5 回	筋、腱の触診：肩関節周囲筋①				
6 回	筋、腱の触診：肩関節周囲筋②				
7 回	筋、腱の触診：上腕部の筋				
8 回	筋、腱の触診：肘・前腕筋①				
9 回	筋、腱の触診：肘・前腕筋②				
10 回	筋、腱の触診：手部の筋①				
11 回	筋、腱の触診：手部の筋②				
12 回	骨、下肢の触診				
13 回	筋、腱の触診：股関節周囲筋①				
14 回	筋、腱の触診：股関節周囲筋②				
15 回	筋、腱の触診：大腿部の筋				
16 回	筋、腱の触診：膝関節周囲筋				
17 回	筋、腱の触診：足部の筋				
18 回	骨、体幹の触診				
19 回	筋、腱の触診：体幹前面・後面				
20 回	筋、腱の触診：頸部の筋				
21 回	血管・神経の触診①				
22 回	血管・神経の触診②				
23 回	血管・神経の触診③				
教科書及び参考書	運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 下肢・体幹、メジカルビュー社 プロメテウス解剖学コアアトラス、 医学書院 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで、 西村書店 標準理学療法学作業療法学 解剖学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	実技試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 解剖学見学実習	石垣純子	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	
授業概要	人体の基本構造を理解するために、実際に骨・筋の形態や配置、血管・末梢神経の走行、脳・脊髄の構造、内臓の位置関係などについて観察し、スケッチを行いながら三次元的に理解する。 生命の尊厳を重んじ、医療従事者としての自覚を養う。				
到達目標	1. 生命の尊厳について自覚し、真摯に参加できる。 2. 主な骨や筋の形態や配置が説明できる。 3. 主な血管、末梢神経の走行が説明できる。 4. 脳・脊髄の外形や構造が説明できる。 5. 内臓諸器官の形態や位置関係が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	山形大学医学部の協力の下、5 日間にわたり実施する。 詳細は解剖学見学実習実施要項に従う。				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学、医学書院 カラー人体解剖学、西村書店 プロメテウス解剖学アトラス、医学書院 解剖学アトラス、文光堂 分担 解剖学、金原出版 カラーアトラス人体、医学書院 解剖学カラーアトラス、医学書院 人体解剖カラーアトラス、南江堂 アトラスとテキスト 人体の解剖、南江堂 骨格筋の形と触察法、大峰閣				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学、運動機能解剖学、神経解剖生理学、内臓解剖生理学、体表解剖学実習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ）の内容を復習すること。 献体や標本には敬意をもって取り組むこと。				
成績評価方法	課題（スケッチ）提出にて単位を認定する。 課題に各部位の名称を記入すること。 実習態度の不良な学生は、単位を認定しない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 生理学実習	石垣純子	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	
授業概要	生理学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や恒常性維持について学修する。				
到達目標	1. 生理機能の意義や原理、それぞれの検査方法が説明・実施できる。 2. 実習で得られた結果に対して客観的な分析と科学的な考察ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	生理学実習の進め方・実習機器の説明				
2 回	実習 1：実習機器と実験手順の説明（血圧）				
3 回	実習 1：実習				
4 回	実習 1：実習				
5 回	実習 1：まとめ				
6 回	実習 2：実習機器と実験手順の説明（心電図）				
7 回	実習 2：実習				
8 回	実習 2：実習				
9 回	実習 2：まとめ				
10 回	実習 1・2 の解説				
11 回	実習 3：実習機器と実験手順の説明（呼吸）				
12 回	実習 3：実習				
13 回	実習 3：実習				
14 回	実習 3：まとめ				
15 回	実習 4：実習機器と実験手順の説明（皮膚感覚）				
16 回	実習 4：実習				
17 回	実習 4：実習				
18 回	実習 4：まとめ				
19 回	実習 5：実習機器と実験手順の説明（筋電図・神経伝導速度）				
20 回	実習 5：実習				
21 回	実習 5：実習				
22 回	実習 5：まとめ				
23 回	実習 3・4・5 の解説				
教科書及び参考書	標準理学療法学作業療法学 生理学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学）の内容を復習すること。 各実習終了後には科学的な考察を論述したレポートを作成し提出すること。				
成績評価方法	筆記試験（50%）、レポート（50%）で評価する。 レポート未提出の学生は、筆記試験を受験できない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 運動学 I	長沼誠	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	解剖学・生理学の知識を基盤に、人体の運動の特徴について学修する。				
到達目標	1. 生体力学の基礎が説明できる。 2. 関節運動と筋の機能が説明できる。 3. 重心と支持基底面が説明できる。 4. 姿勢保持、歩行動作が説明できる。 5. 年齢と発達課題が説明できる。 6. 運動学習が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	運動学と作業療法				
2 回	生体力学の基礎①（運動学的分析）				
3 回	生体力学の基礎②（モーメント）				
4 回	生体力学の基礎③（身体とてこ）				
5 回	関節と関節運動（上肢）				
6 回	筋の機能と関節運動（上肢）				
7 回	関節と関節運動（下肢）				
8 回	筋の機能と関節運動（下肢）				
9 回	関節と関節運動（体幹）				
10 回	筋の機能と関節運動（体幹）				
11 回	重心と支持基底面①				
12 回	重心と支持基底面②				
13 回	姿勢保持と関節①				
14 回	姿勢保持と関節②				
15 回	姿勢保持と関節③				
16 回	歩行と走行①（歩行周期）				
17 回	歩行と走行②（運動学的分析）				
18 回	歩行と走行③（運動力学的分析）				
19 回	歩行と走行④（異常歩行）				
20 回	歩行と走行⑤（走行の運動学的分析）				
21 回	正常発達と反射活動について①				
22 回	正常発達と反射活動について②				
23 回	正常発達に必要な要素について①				
24 回	正常発達に必要な要素について②				
25 回	年齢と発達課題について①				
26 回	年齢と発達課題について②				
27 回	運動学習①				
28 回	運動学習②				
29 回	運動学習③				
30 回	運動学習④				
教科書及び参考書	基礎運動学、 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス、 医学書院 カラー人体解剖学、 西村書店				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験により評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門基礎分野> 運動学Ⅱ	長沼誠	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	
授業概要	基本動作や異常動作などの動作分析について、運動学的な考え方をもとに学修する。				
到達目標	1. 正常動作に必要な要素を理解し、動作分析の方法が説明できる。 2. 基本動作や異常動作の動作分析が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	動作分析を学ぶ意義				
2 回	基本動作における動作分析（背臥位）①				
3 回	基本動作における動作分析（背臥位）②				
4 回	基本動作における動作分析（寝返り）①				
5 回	基本動作における動作分析（寝返り）②				
6 回	基本動作における動作分析（起き上がり）①				
7 回	基本動作における動作分析（起き上がり）②				
8 回	基本動作における動作分析（座位）①				
9 回	基本動作における動作分析（座位）②				
10 回	基本動作における動作分析（起立）①				
11 回	基本動作における動作分析（起立）②				
12 回	基本動作における動作分析（立位）①				
13 回	基本動作における動作分析（立位）②				
14 回	基本動作における動作分析（歩行）①				
15 回	基本動作における動作分析（歩行）②				
16 回	基本動作における動作分析（歩行）③				
17 回	基本動作における動作分析（歩行）④				
18 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）①				
19 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）②				
20 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）③				
21 回	異常動作分析（視聴覚教材を用いた演習）④				
22 回	運動発達の分析①				
23 回	運動発達の分析②				
教科書及び参考書	基礎運動学、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学、運動学Ⅰ）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。 実技のできる服装を用意すること。				
成績評価方法	実技（50%）・筆記（50%）試験において単位を認定する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 人間発達学	佐藤秀則	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションの評価・治療に必要な、人間が生まれてからの各ライフステージにおける人間発達の概要や発達課題について学修する。				
到達目標	1.人間発達の諸段階における身体的発達の概要が説明できる。 2.人間発達の諸段階における発達課題が説明できる。 3.上記の知識をリハビリテーションの評価・治療に応用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	人間発達学総論				
2 回	身体発達 (1)				
3 回	身体発達 (2)				
4 回	運動機能の発達 (1)				
5 回	運動機能の発達 (2)				
6 回	乳児期 (1)				
7 回	乳児期 (2)				
8 回	幼児期 (1)				
9 回	幼児期 (2)				
10 回	児童期				
11 回	青年期				
12 回	成人期				
13 回	老年期				
14 回	発達検査 (1)				
15 回	発達検査 (2)				
教科書及び参考書		リハビリテーションのための人間発達学、メディカルプレス			
時間外学修及び留意事項		履修した内容について、その都度復習し理解を深めること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 病理学	長沼誠	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	種々の疾病における原因、発症の機序、病気の進展過程、臨床像との関連、転帰、治療などについて、解剖学や細胞組織学の基盤の上に、主に器官・組織・細胞の形態学的変化として総論的に学修する。				
到達目標	1．医療分野における病理学の位置付けと病理学的な考え方が説明できる。 2．病的状態における細胞、組織、器官（臓器）の変化が説明できる。 3．各種疾病について、その原因と、発症、進展の要因、メカニズムが説明できる。 4．疾患個別の病的状態を正確に把握し、最善の医療行為に資することができるように考察できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	病理学の概要、病因論				
2 回	退行性病変・進行性病変				
3 回	代謝障害(1)				
4 回	代謝障害(2)				
5 回	循環障害(1)				
6 回	循環障害(2)				
7 回	免疫(1)				
8 回	免疫(2)				
9 回	炎症・感染症(1)				
10 回	炎症・感染症(2)				
11 回	腫瘍(1)				
12 回	腫瘍(2)				
13 回	腫瘍(3)				
14 回	老化				
15 回	先天異常・奇形				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		授業で配られたプリントやノートを見ながら、しっかり理解できたかどうか復習すること。 疑問点は積極的に質問して解決しておくよう心がける。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 臨床心理学	鈴木竜平	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	本講義では臨床心理学の様々な理論や技法の学修を通じ、患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴などの具体的な技法を学修する。				
到達目標	1.臨床心理学の基礎的な理論や技法が説明できる。 2.患者と接する時に身につけるべき態度や傾聴などの具体的な技法が実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	臨床心理学概論				
2 回	心理アセスメント（質問法）				
3 回	心理アセスメント（投影法）				
4 回	精神疾患Ⅰ（身体表現性・解離性）				
5 回	精神疾患Ⅱ（統合失調症・気分障害・不安障害）				
6 回	精神疾患Ⅲ（不適応・摂食障害・依存症・その他）				
7 回	障害者の心理（1）				
8 回	障害者の心理（2）				
9 回	心理療法Ⅰ（来談者中心療法）				
10 回	心理療法Ⅱ（支持療法）				
11 回	心理療法Ⅲ（精神療法・認知行動療法）				
12 回	心理療法Ⅳ（交流分析）				
13 回	心理療法Ⅴ（自律訓練法）				
14 回	心理療法Ⅵ（絵画療法）				
15 回	心理療法Ⅶ（その他の療法）				
教科書及び参考書	標準理学療法作業療法 臨床心理学、医学書院				
時間外学修及び留意事項	授業終了後には、配布したプリントやノートを見ながら、理解を深めること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 整形外科学	齋藤聡	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	骨、関節、筋腱、靱帯、神経血管系疾患の病態生理、診断、治療法、予後などについて学修する。				
到達目標	1.整形外科で扱う運動器の疾病や外傷などの病態、治療が説明できる。 2.運動器の機能障害が日常生活活動に及ぼす影響を理解し、作業療法へ関連付けることができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	整形外科とは 整形外科の基礎科学 (1) ①骨の構造、生理、生化学				
2 回	整形外科の基礎科学 (2) ②骨の発生、成長、維持				
3 回	整形外科の基礎科学 (3) ③骨の病態、病理 ④骨の修復と再生 ⑤関節の構造、生理、生化学 ⑥関節の病理、病態 ⑦関節軟骨の修復と再生				
4 回	整形外科の基礎科学 (4) ⑧筋・神経の構造、生理、化学 ⑨痛みの基礎科学と臨床				
5 回	整形外科診断総論 (1) ①診療の基本②主訴、主症状から想定すべき疾患③整形外科的現症の取り方				
6 回	整形外科診断総論 (2) ④検査				
7 回	整形外科治療総論 ①保存療法 ②手術療法				
8 回	整形外科疾患総論 (1) ①軟部組織・骨・関節の感染症 ②慢性関節疾患 (退行性、代謝性) ③四肢循環障害と阻血壊死性疾患				
9 回	整形外科疾患総論 (2) ④関節リウマチとその類縁疾患 ⑤ロコモティブシンドローム				
10 回	整形外科疾患総論 (3) ⑥先天性骨系統疾患 ⑦先天異常症候群 ⑧代謝性骨疾患 (その 1)				
11 回	整形外科疾患総論 (4) ⑧代謝性骨疾患 (その 2) ⑨骨腫瘍				
12 回	整形外科疾患総論 (5) ⑩軟部腫瘍 ⑪神経疾患、筋疾患				
13 回	整形外科疾患各論 (1) ①肩関節 ②肘関節				
14 回	整形外科疾患各論 (2) ③手関節と手 (その 1)				
15 回	整形外科疾患各論 (3) ③手関節と手 (その 2)				
16 回	整形外科疾患各論 (4) ④頸椎				
17 回	整形外科疾患各論 (5) ⑤胸郭 ⑥胸椎 ⑦腰椎 (その 1)				
18 回	整形外科疾患各論 (6) ⑦腰椎 (その 2)				
19 回	整形外科疾患各論 (7) ⑧股関節 (その 1)				
20 回	整形外科疾患各論 (8) ⑧股関節 (その 2)				
21 回	整形外科疾患各論 (9) ⑨膝関節 (その 1)				
22 回	整形外科疾患各論 (10) ⑨膝関節 (その 2) ⑩足関節と足 (その 1)				
23 回	整形外科疾患各論 (11) ⑩足関節と足 (その 2) 整形外科外傷学 (1) ①外傷総論 (その 1)				
24 回	整形外科外傷学 (2) ①外傷総論 (その 2) ②軟部組織損傷				
25 回	整形外科外傷学 (3) ③骨折・脱臼 (その 1)				
26 回	整形外科外傷学 (4) ③骨折・脱臼 (その 2)				
27 回	整形外科外傷学 (5) ④脊椎・脊髄損傷				
28 回	整形外科外傷学 (6) ⑤末梢神経損傷				
29 回	スポーツと整形外科 ①スポーツ損傷 ②障害者スポーツ				
30 回	リハビリテーション ①運動器疾患のリハビリテーション ②義肢				
教科書及び参考書	標準整形外科学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	必ず復習をして、知識を整理しておくこと。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
＜専門基礎分野＞ 内科学	島崎朋司	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	
授業概要	内科系疾患の病因や病態、治療や予後ならびに作業療法に深く関わる疾患について学ぶ。				
到達目標	1.代表的な内科系疾患の疫学、病態、診断、予後、治療法などが説明できる。 2.上記の知識をリハビリテーションの評価・治療に応用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	内科学総論 医学史 内科診療の実際				
2 回	呼吸器疾患 呼吸器感染症				
3 回	呼吸器疾患 アレルギー・免疫疾患 慢性閉塞性肺疾患				
4 回	呼吸器疾患 間質系肺疾患 気道系疾患 肺腫瘍（含む 悪性腫瘍総論）				
5 回	呼吸器疾患 肺循環疾患 換気異常 呼吸不全 胸膜疾患 縦隔疾患				
6 回	循環器疾患 心不全 不整脈				
7 回	循環器疾患 虚血性心疾患				
8 回	循環器疾患 心筋疾患 心臓弁膜症				
9 回	循環器疾患 高血圧症 動脈硬化 動脈疾患 静脈疾患				
10 回	消化器疾患 食道の疾患 胃・十二指腸の疾患				
11 回	消化器疾患 胃・十二指腸の疾患 大腸の疾患				
12 回	消化器疾患 大腸の疾患 肛門の疾患				
13 回	肝・胆・膵疾患 肝臓疾患				
14 回	肝・胆・膵疾患 肝臓疾患 胆道疾患				
15 回	肝・胆・膵疾患 胆道疾患 膵疾患				
16 回	代謝性疾患 糖尿病				
17 回	代謝性疾患 低血糖症 肥満症 メタボリックシンドローム 脂質異常症				
18 回	代謝性疾患 痛風 ビタミン欠乏症 骨粗鬆症				
19 回	内分泌疾患 視床下部・下垂体疾患 甲状腺疾患				
20 回	内分泌疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患				
21 回	腎・泌尿器疾患 慢性腎臓病 糸球体腎炎				
22 回	腎・泌尿器疾患 続発性腎疾患 腎・泌尿器感染症				
23 回	腎・泌尿器疾患 泌尿器疾患 腎不全				
24 回	血液疾患 赤血球の疾患 白血球の疾患				
25 回	血液疾患 白血球の疾患 出血性疾患				
26 回	膠原病・アレルギー疾患 膠原病				
27 回	膠原病・アレルギー疾患 アレルギー疾患				
28 回	感染症 解剖と生理 細菌性疾患				
29 回	感染症 細菌性疾患				
30 回	感染症 ウイルス性疾患				
教科書及び参考書		なるほどなっとく内科学 南山堂			
時間外学修及び留意事項		必ず復習をして、知識を整理しておくこと。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
<専門基礎分野> 神経内科学	藤井聡 山崎良彦	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
	実務家教員				
授業概要	神経内科諸疾患の病因・病態について総合的に学ぶ。特にリハビリテーションの対象となることの多い疾患については、治療、予後等についても学ぶ。				
到達目標	1.中枢神経系および筋疾患などの神経内科諸疾患の理解に必要な基礎知識が説明できる。 2.神経内科諸疾患の病態生理学を理解し、それに基づいた回復過程の促進を図ることができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	中枢神経系の解剖と機能（1）：神経の生理学の基礎				
2 回	中枢神経系の解剖と機能（2）：中枢神経系の構造と機能				
3 回	中枢神経系の解剖と機能（3）：運動・感覚系の情報処理、末梢神経系の構造と機能				
4 回	神経学的診断と評価：脳神経・小脳失調の兆候、脊髄反射の意味、感覚障害の評価について				
5 回	神経学的検査法：画像診断、電気生理学的検査、血液生化学検査および腰椎穿刺などの検査法の理解				
6 回	意識障害、脳死、植物状態、めまい、頭痛：脳死・植物状態などの意識障害およびめまい・頭痛の病態生理学と評価法				
7 回	感覚障害：感覚障害の病態生理学と評価法の基礎				
8 回	記憶障害、認知症、遂行機能障害：記憶のメカニズムと認知症・遂行機能障害の病態生理学における研究最前線について				
9 回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮：運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮病態生理学とその評価法				
10 回	錐体外路徴候、不随意運動：大脳基底核病変にかかわる疾患と錐体外路徴候、不随意運動の病態生理学				
11 回	運動失調：運動失調の病態生理学				
12 回	失語症：失語症の病態生理学と評価法の基礎				
13 回	失 認：失認の病態生理学と評価法の基礎				
14 回	失 行・注意障害：失行・注意障害の病態生理学と評価法の基礎				
15 回	構音障害・嚥下障害：構音・嚥下のメカニズムと構音障害・嚥下障害の病態生理学				
16 回	脳神経外科領域の疾患・脳血管障害：頭蓋内圧亢進とその破綻における病態生理学				
17 回	脳血管障害：脳血管障害の病態・治療法・回復過程とリハビリテーションの重要性				
18 回	認知症：脳血管性認知症とアルツハイマー型認知症の病態・その他の認知症についての解説				
19 回	脳腫瘍：脳腫瘍の基礎的理解と一般的な病態について				
20 回	外傷性脳損傷：頭部外傷の病態・治療法・回復過程とリハビリテーションの重要性				
21 回	脊髄疾患：脊髄損傷の病態・評価法・治療法・回復過程とリハビリテーションの重要性				
22 回	変性疾患・脱髄疾患：脱髄疾患・変性疾患の病態生理学				
23 回	錐体外路の変性疾患：錐体外路疾患の症状と診断・治療について				
24 回	末梢神経障害、てんかん：末梢神経障害、てんかんの病態生理学および疾患各論				
25 回	筋疾患（1）：筋ジストロフィーについての疾患各論				
26 回	筋疾患（2）：その他の筋疾患についての疾患各論				
27 回	感染性疾患、中毒性疾患：神経の感染症および中毒性疾患各論				
28 回	小児神経疾患：ダウン症・脳性まひ・中枢神経奇形などに起因する発達障害について				
29 回	廃用症候群と誤用症候群：廃用・誤用症候群防止のための基礎知識とリハビリテーションの重要性				
30 回	排尿障害・性機能障害：排尿障害・性機能障害の病態生理学と諸問題				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門 神経内科学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	1 年次の解剖学、生理学等を確認して授業に臨むこと。 授業で配布した資料等を活用して毎回復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 精神医学	石澤正夫	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	精神医学の概要と、個々の精神障害の症状、診断、治療・対応について学び、作業療法士として必要な精神医学の基礎的知識について理解を深める。				
到達目標	1.代表的な精神障害の症状、診断、治療法が説明できる。 2.作業療法士として必要な精神障害の基本的知識が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	精神障害とは 精神障害の診断・検査・治療				
2 回	統合失調症 1				
3 回	統合失調症 2				
4 回	気分（感情）障害				
5 回	自殺とうつ病（特に高齢者のうつ病について） 軽症うつ病				
6 回	症状性精神障害・器質性精神障害				
7 回	認知症				
8 回	てんかん				
9 回	アルコール依存症 薬物依存と中毒性精神障害				
10 回	薬物依存と中毒性精神病 パーソナリティー障害				
11 回	神経症性障害・心因性精神病・心身症				
12 回	児童・思春期の精神障害				
13 回	発達障害 1				
14 回	発達障害 2				
15 回	精神保健				
教科書及び参考書		標準理学療法作業療法 精神医学、医学書院			
時間外学修及び留意事項		毎回、理解を深めるために復習すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 小児科学	五十嵐勝朗	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	小児は成長・発達するということを踏まえて、疾病・障害を学ぶ。さらに、成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら理解を深める。				
到達目標	1.小児の発育・発達等が説明できる。 2.小児の疾病や障害が説明できる。 3.適切なりハビリテーションを行うため小児特有の問題点や解決方法が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	総論（Ⅰ）				
2 回	総論（Ⅱ）				
3 回	DNA、脳				
4 回	反射（Ⅰ）				
5 回	反射（Ⅱ）				
6 回	呼吸、免疫、消化と代謝				
7 回	運動、神経				
8 回	内分泌、睡眠				
9 回	感覚、皮膚				
10 回	骨、歯、体温、発熱				
11 回	血液と血管、体液				
12 回	栄養、生理機能の正常値、尿意				
13 回	検診、くせ、環境、事故				
14 回	発達の異常（Ⅰ）				
15 回	発達の異常（Ⅱ）				
教科書及び参考書		医療従事者のための乳幼児の発育と生理機能、径書房			
時間外学修及び留意事項		ノートを確認して復習すること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門基礎分野＞ 老年医学	鈴木竜平	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	老化に伴う生理的変化、運動機能の低下について学ぶ。また、高齢者特有の疾病の種類と特徴を学ぶ。				
到達目標	1. 老化に伴う身体機能、運動機能、心理変化とそれらが疾病の成り立ちにどのように関与するか説明できる。 2. 高齢者に多い疾患の病態・治療の考え方が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	老化と老年期の考え方① 加齢に伴う変化（生理機能、運動機能）				
2 回	老化と老年期の考え方② 加齢に伴う変化（精神心理面）				
3 回	高齢者に多い症候と老年症候群				
4 回	循環器疾患① （血圧異常、不整脈、虚血性心疾患について）				
5 回	循環器疾患② （弁膜症、心筋症、心膜疾患、心不全について）				
6 回	呼吸器疾患				
7 回	消化器疾患				
8 回	骨・運動器疾患① （老化に伴う骨折、骨粗鬆症について）				
9 回	骨・運動器疾患② （変形性関節症、後縦靱帯骨化症、関節リウマチについて）				
10 回	内分泌代謝疾患①				
11 回	内分泌代謝疾患②				
12 回	血液・免疫疾患				
13 回	腎・泌尿器疾患①				
14 回	腎・泌尿器疾患②				
15 回	感染症				
教科書及び参考書		標準理学療法学・作業療法学 老年学、 医学書院			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 一般臨床医学	松澤克典 神保康志 井上聡子 長岡明	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	医療従事者として共通の幅広い医学的知識を習得するため、外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患について病態、診断と治療を学ぶ。				
到達目標	1. 外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患について特徴的な症状、治療法が説明できる。 2. 外科、脳外科、泌尿器科、産科領域の代表的疾患における基本的リハビリテーションが説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	日本の疫学				
2 回	臓器と疾患―呼吸器				
3 回	臓器と疾患―消化器				
4 回	悪性腫瘍総論				
5 回	悪性腫瘍―各論 1				
6 回	悪性腫瘍―各論 2				
7 回	解剖				
8 回	病態生理（神経症候のみかた）①				
9 回	病態生理（神経症候のみかた）②				
10 回	画像・検査				
11 回	脳血管障害				
12 回	脳腫瘍、頭部外傷、感染症				
13 回	まとめ				
14 回	泌尿器科疾患概論				
15 回	産科疾患概論				
教科書及び参考書		はじめて学ぶ！脳神経外科のキホンとケア、総合医学社			
時間外学修及び留意事項		授業終了後には、授業で配られたプリントやノートを見ながら復習しておくこと。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 臨床薬学	鈴木竜平	作業療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーション医療において、脳神経疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、精神疾患を有する対象者の理解、評価のために薬理学の基礎的知識を学修する。				
到達目標	1. 作業療法士として必要な薬剤の基本的な知識を説明できる。 2. 各疾患に必要な治療薬の説明ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	臨床薬理学総論（1） 薬剤の必要性				
2 回	臨床薬理学総論（2） 薬剤の薬理作用、副作用				
3 回	臨床薬理学各論（1） 脳卒中と治療薬				
4 回	臨床薬理学各論（2） 神経疾患と治療薬				
5 回	臨床薬理学各論（3） 呼吸器疾患と治療薬				
6 回	臨床薬理学各論（4） 各種感染症と治療薬				
7 回	臨床薬理学各論（5） 循環器疾患、生活習慣病の治療薬				
8 回	臨床薬理学各論（6） 精神疾患の治療薬				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		授業終了後には、授業で配られたプリントやノートを見ながら復習しておくこと。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 救急救命学	石澤正夫	作業療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	救急医療体制を理解し、救急医療における我が国の諸問題について学修する。 医療現場で必要とされる応急処置法や心肺蘇生法についての知識・技術を学修する。				
到達目標	1. 我が国の救急医療体制について説明できる。 2. 救急医療・災害医療における諸問題を説明できる。 3. 救命処置と応急処置（ファーストエイド）について説明できる。 4. 医療人として必要な応急処置、心肺蘇生法を説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	救急医療の概要				
2 回	災害医療の概要				
3 回	救命処置と応急処置（ファーストエイド）の概要				
4 回	応急処置法の概要（気道遺物、止血、溺水、過換気症候群、鼻出血、熱傷、など）				
5 回	心肺停止、心配蘇生法の概要				
6 回	心肺蘇生法①				
7 回	心肺蘇生法②				
8 回	心肺蘇生法③				
教科書及び参考書		教科書の指定はなし。授業時に紹介予定ではあるが、主な参考書として以下に示す。 参考書：救急蘇生法の指針（2015）医療従事者用　ヘルス出版			
時間外学修及び留意事項		1 回の講義につき復習を行うこと。			
成績評価方法		認定試験の結果をもって総合的に評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> リハビリテーション概論	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションの定義・目的・リハビリテーションの領域について学修する。さらに、医療職種として必要な障害者の心理過程や法律について学修する。				
到達目標	1.リハビリテーションの定義・目的が説明できる。 2.障害の構造を学び、ICF の構造が説明できる。 3.リハビリテーションの領域や関連する法律が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	リハビリテーションの概念・定義				
2 回	リハビリテーションの理念（IL 運動・ノーマライゼーション、QOL）				
3 回	健康・疾病の概念				
4 回	障害の概念 疾病と障害の分類 ICIDH				
5 回	疾病と障害の分類 ICF①				
6 回	疾病と障害の分類 ICF②				
7 回	障害と心理について① 防衛機制				
8 回	防衛機制的まとめ				
9 回	障害と心理について② 障害受容				
10 回	障害受容のまとめ				
11 回	リハビリテーションの領域：医学的リハビリテーション、				
12 回	リハビリテーションの領域：職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、				
13 回	教育的リハビリテーション				
14 回	地域リハビリテーションと社会資源				
15 回	健康対策（健康管理、健康増進、予防）				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験（80%）、レポート（20%）で評価する。 課題が未提出の学生は、筆記試験を受験することはできない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> チーム医療論	石垣純子	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	リハビリテーションは「チーム医療」であり、その医療を円滑に進めるための連携について理解することを目的とする。また、チームを構成する主な関連職種の役割について理解したうえで、協業を円滑に進めるための方法や倫理について学修する。				
到達目標	1.チーム医療の定義と必要性を説明できる。 2.リハビリテーション医療に携わる主な専門職種の役割について説明できる。 3.実践例を通して、チーム医療の効果を検討できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	チーム医療・チームワークとは				
2 回	チーム医療に必要なコミュニケーション力				
3 回	チーム医療に必要なコミュニケーション力				
4 回	リハビリテーション医療における専門職種の役割①				
5 回	リハビリテーション医療における専門職種の役割②				
6 回	リハビリテーション医療における専門職種の役割③				
7 回	医療職の専門性（業務独占、名称独占、守秘義務）				
8 回	チーム医療の実践から学ぶ				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義の進捗に合わせてレポート課題を課す。			
成績評価方法		筆記試験 70%、レポート 30%で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門基礎分野＞ 地域包括マネジメント論	鈴木竜平	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	障害者や高齢者が住み慣れた場所で安心して生活できるように支援することが地域リハビリテーションの目的である。この授業では、地域包括ケアシステム実習に向けて、地域リハビリテーションの背景と理念、目的、実践方法などを学修する。				
到達目標	1. 住み慣れた地域の特徴について説明できる。 2. 地域包括ケアシステムについて説明できる。 3. 地域における作業療法士の役割と業務について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション 介護保険制度				
2 回	介護保険制度				
3 回	地域支援事業				
4 回	地域支援事業 介護予防・日常生活支援総合事業				
5 回	地域包括ケアシステムとは				
6 回	地域包括ケアシステムとは 地域包括支援センター				
7 回	介護老人福祉施設（特養） 介護老人保健施設（老健）				
8 回	通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション事業所				
教科書及び参考書	標準作業療法学 地域作業療法学、医学書院 生活行為向上マネジメント、日本作業療法協会				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法概論、リハビリテーション概論）の内容を復習すること。講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	レポート課題（10%）、筆記試験（90%）で評価する				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門基礎分野> 公衆衛生学	大谷勝実	作業療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	
授業概要	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、感染症対策について学ぶ。疾病予防、健康管理、環境保健などの諸問題から医療福祉制度について理解する。				
到達目標	1.人の健康を規定する要因としての社会・環境に関して説明できる。 2.人々の健康管理や疾病予防に役立てる基礎的な考え方とその取組について説明できる。 3.保健・医療・福祉制度や関連法規について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	公衆衛生序論				
2 回	保健統計				
3 回	疫学				
4 回	疾病予防と健康管理				
5 回	感染症対策				
6 回	環境保健保健医療福祉制度				
7 回	地域保健				
8 回	保健医療福祉制度				
教科書及び参考書		シンプル衛生公衆衛生学、 南江堂			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 作業療法概論	島田和人 (作業療法士)	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして基本的な作業療法について教育を行う。 作業療法の理論的背景や歴史への理解を深め、作業療法の定義、業務、対象、過程について学修する。				
到達目標	1.作業療法への理解を深め、その理論的背景や定義が説明できる。 2.作業療法の過程を理解し、対象者にどのように展開していくのかが説明できる。 3.各分野における作業療法の実際が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション 作業療法の定義				
2 回	作業療法にとっての「作業」①				
3 回	作業療法にとっての「作業」②				
4 回	作業療法の起源・歴史・現状				
5 回	作業療法の領域「対象」「場所」「実践」				
6 回	作業療法における根拠とは（EBM とナラティブ）				
7 回	作業療法の過程①				
8 回	作業療法の過程②				
9 回	作業療法の過程③				
10 回	作業療法の過程④				
11 回	作業療法評価と ICF①				
12 回	作業療法評価と ICF②				
13 回	作業療法評価と ICF③				
14 回	作業療法評価と ICF④				
15 回	身体機能作業療法①				
16 回	身体機能作業療法②				
17 回	身体機能作業療法③				
18 回	身体機能作業療法④				
19 回	精神機能作業療法①				
20 回	精神機能作業療法②				
21 回	精神機能作業療法③				
22 回	精神機能作業療法④				
23 回	発達機能作業療法①				
24 回	発達機能作業療法②				
25 回	事例検討①				
26 回	事例検討②				
27 回	事例検討③				
28 回	事例検討④				
29 回	事例検討⑤				
30 回	事例検討⑥				
教科書及び参考書		標準作業療法学 作業療法概論、 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学、医学書院			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習をすること。			
成績評価方法		筆記試験で評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 基礎作業学実習	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業活動に関して課題の制作を通して教育を行う。 作業療法で用いる作業活動の道具・技法・特徴および、作業療法的視点を学び、実際に課題を制作する。				
到達目標	1.作業療法で用いられる作業活動の作業療法的視点が説明できる。 2.各作業における素材・道具・機器について学び、取扱い・管理・安全策が説明できる。 3.準備・道具の使用方法・制作工程について学び、課題の制作ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション・ステンシル① 方法、制作時の注意				
2 回	ステンシル②				
3 回	陶芸① 工程の説明、道具の確認、方法、制作時の注意				
4 回	陶芸② 土練り、ぐい呑み（手びねり）				
5 回	陶芸③ 土練り、湯呑（紐づくり）				
6 回	陶芸④ 土練り、湯呑（紐づくり）				
7 回	陶芸⑤ 土練り、キャンドルポット（板づくり）				
8 回	陶芸⑥ 土練り、キャンドルポット（板づくり）				
9 回	籐細工（ラタン）① 方法、制作時の注意				
10 回	籐細工（ラタン）② 制作				
11 回	籐細工（ラタン）③ 制作				
12 回	籐細工（ラタン）④ 制作				
13 回	籐細工（ラタン）⑤ 制作				
14 回	革細工① 方法 1、制作時の注意				
15 回	革細工② 制作				
16 回	革細工③ 方法 2、制作時の注意				
17 回	革細工④ 制作				
18 回	革細工⑤ 制作				
19 回	革細工⑥ 制作				
20 回	七宝焼き① 方法、制作時の注意点				
21 回	七宝焼き② 制作				
22 回	七宝焼き③ 制作				
23 回	七宝焼き④ 制作				
教科書及び参考書	資料配布				
時間外学修及び留意事項	作業活動後にレポート課題を課す場合がある。				
成績評価方法	制作課題 80%、レポート課題 20%を総合して評定する。 制作課題・レポート課題いずれかひとつでも未提出の学生は、成績評価の対象にならない。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 病態運動学Ⅰ	内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法の対象となる疾患の特徴について教育を行う。 疾病や外傷などにより発生する運動障害や動作障害と行為障害について、その特徴や発生機序に関する基本的知識について学修する。				
到達目標	1. 作業療法の対象となる疾患から生じる活動制限の臨床的特徴が説明できる。 2. 各疾患の病態から及ぼされる姿勢、運動、動作への影響の概略が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	作業療法と病態運動学				
2 回	廃用症候群とは				
3 回	廃用症候群：運動器				
4 回	廃用症候群：呼吸循環など				
5 回	中枢神経、末梢神経、錐体路障害、錐体外路障害				
6 回	中枢神経、末梢神経、錐体路障害、錐体外路障害				
7 回	神経疾患：脳卒中				
8 回	神経疾患：脳卒中				
9 回	神経疾患：脳卒中				
10 回	神経疾患：脳卒中				
11 回	神経疾患：高次脳機能障害				
12 回	神経疾患：高次脳機能障害				
13 回	神経疾患：高次脳機能障害				
14 回	神経疾患：高次脳機能障害				
15 回	神経疾患：パーキンソン病				
16 回	神経疾患：パーキンソン病				
17 回	神経疾患：パーキンソン病				
18 回	神経疾患：パーキンソン病				
19 回	神経疾患：運動失調				
20 回	神経疾患：運動失調				
21 回	神経疾患：運動失調				
22 回	神経疾患：運動失調				
23 回	整形外科疾患：骨折				
24 回	整形外科疾患：骨折				
25 回	整形外科疾患：骨折				
26 回	整形外科疾患：骨折				
27 回	整形外科疾患：末梢神経損傷				
28 回	整形外科疾患：末梢神経損傷				
29 回	整形外科疾患：末梢神経損傷				
30 回	整形外科疾患：末梢神経損傷				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.7 脳・神経 Vol.11 運動器・整形外科、メディックメディア 標準整形外科学、医学書院 なるほどなっとく内科学、南山堂				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学、神経解剖生理学、内臓解剖生理学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 病態運動学Ⅱ	内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法の対象となる疾患の特徴について教育を行う。 疾病や外傷などにより発生する運動障害や動作障害と行為障害について、その特徴や発生機序に関する基本的知識について学修する。				
到達目標	1. 作業療法の対象となる疾患から生じる活動制限の臨床的特徴が説明できる。 2. 各疾患の病態から及ぼされる姿勢、運動、動作への影響の概略が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
2 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
3 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
4 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
5 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
6 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
7 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
8 回	整形外科疾患：脊髄損傷				
9 回	呼吸器疾患：閉塞性・拘束性換気障害				
10 回	呼吸器疾患：閉塞性・拘束性換気障害				
11 回	呼吸器疾患：換気障害				
12 回	呼吸器疾患：換気障害				
13 回	循環器疾患：心機能・末梢循環機能				
14 回	循環器疾患：心機能・末梢循環機能				
15 回	循環器疾患：心疾患				
16 回	循環器疾患：心疾患				
17 回	循環器疾患：心疾患				
18 回	循環器疾患：心疾患				
19 回	精神科系疾患：統合失調症				
20 回	精神科系疾患：統合失調症				
21 回	精神科系疾患：感情障害				
22 回	精神科系疾患：感情障害				
23 回	精神科系疾患：認知症				
24 回	精神科系疾患：認知症				
25 回	精神科系疾患：認知症				
26 回	精神科系疾患：認知症				
27 回	神経発達障害群：自閉スペクトラム障害				
28 回	神経発達障害群：自閉スペクトラム障害				
29 回	神経発達障害群：注意欠如多動性障害				
30 回	神経発達障害群：学習障害				
教科書及び参考書	病気がみえる Vol.7 脳・神経 Vol.11 運動器・整形外科、メディックメディア 標準整形外科学、医学書院 なるほどなっとく内科学、南山堂				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（基礎解剖生理学、神経解剖生理学、内臓解剖生理学、精神医学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法研究法Ⅰ	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科３年	講義	単位・時間	１・３０
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・教育・研究経験を生かして、作業療法領域における研究について教育する。 「研究とは何か」を学ぶ。研究に関する倫理と管理、文献レビュー、計画書の作成について学修する。 研究法に必要な統計処理方法を学ぶ。				
到達目標	研究に必要な知識を理解し、説明できる。 研究に必要な技術（文献検索、計画書の作成方法など）を理解し、実施できる。 研究疑問に対する仮説を立て、先行研究をレビューし、研究テーマを設定できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
１回	研究の目的と方法				
２回	研究の流れ				
３回	研究テーマの発見①				
４回	研究テーマの発見②				
５回	研究倫理と管理				
６回	文献の探し方、文献レビュー				
７回	統計学の基礎①				
８回	統計学の基礎②				
９回	データ処理				
１０回	図表作成				
１１回	研究計画書の作成 ①テーマの選択				
１２回	研究計画書の作成 ②テーマの絞込み				
１３回	研究計画書の作成 ③計画				
１４回	研究計画書の作成 ④文献検索				
１５回	研究計画書の作成 ⑤実施				
教科書及び参考書	作業療法研究法、 三輪書店				
時間外学修及び留意事項	積極的に図書館等で文献検索を行い、科学的根拠を持って考察すること。 各個人が研究に対して責任と自覚を持ちながら行うこと。				
成績評価方法	研究計画書の内容で評価する				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法研究法Ⅱ	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	講義・演習	単位・時間	3・90
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・教育・研究経験を生かして、作業療法領域における研究について教育する。 担当教員の指導のもとに研究過程を学修する。				
到達目標	1.一連の研究活動を通して、研究に対する考え方やその方法を実施できる。 2.研究計画書を基に、実施して得られた結果を考察し、論文を作成できる。				
授業計画					
	授 業 内 容		授 業 内 容		
1 回	統計学の基礎 講義①	23 回			
2 回	講義②	24 回			
3 回	結果の整理①	25 回			
4 回	結果の整理②	26 回			
5 回	統計処理・図表の作成①	27 回			
6 回	統計処理・図表の作成②	28 回			
7 回	論文の作成 目的・方法①	29 回			
8 回	論文の作成 目的・方法②	30 回			
9 回	論文の作成 結果①	31 回			
10 回	論文の作成 結果②	32 回			
11 回	論文の作成 考察①	33 回			
12 回	論文の作成 考察②	34 回			
13 回	論文作成（学生ごとに研究進行）	35 回			
14 回	13 回～43 回	36 回			
15 回	各グループ担当	37 回			
16 回	（鈴木、内海、石澤、武田）	38 回			
17 回		39 回			
18 回		40 回			
19 回		41 回			
20 回		42 回			
21 回		43 回			
22 回		44 回 45 回			
教科書及び参考書		作業療法士のための研究法入門、 三輪書店			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（作業療法研究法Ⅰ）の内容を基にしながら論文作成を行うこと。また、各個人が研究に対して責任と自覚を持ちながら行うこと。			
成績評価方法		論文の内容にて評価する。 研究活動に対する態度が不良な学生は単位を認定しない。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 作業療法総合演習Ⅰ	島田和人 (作業療法士)	作業療法学科 4 年	演習	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして、臨床経験を生かし作業療法の思考過程ならびに評価・治療技術に関して教育を行う。 治療実習に向けて、症例検討を実施し臨床的思考を構築する。また、評価・治療に関する手技等について、質を高めて学修する。				
到達目標	1.症例検討を通じ、一連の作業療法についての臨床的に考え、検討できる。 2.評価・治療に関する方法等について質を高め、実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	症例検討 中枢神経疾患①				
2 回	症例検討 中枢神経疾患②				
3 回	症例検討 中枢神経疾患③				
4 回	症例検討 中枢神経疾患④ まとめ				
5 回	評価・治療方法の確認①				
6 回	評価・治療方法の確認②				
7 回	症例検討 統合失調症①				
8 回	症例検討 統合失調症②				
9 回	症例検討 統合失調症③				
10 回	症例検討 統合失調症④ まとめ				
11 回	評価・治療方法の確認③				
12 回	評価・治療方法の確認④				
13 回	症例検討 整形疾患①				
14 回	症例検討 整形疾患②				
15 回	症例検討 整形疾患③				
16 回	症例検討 整形疾患④ まとめ				
17 回	評価・治療方法の確認⑤				
18 回	評価・治療方法の確認⑥				
19 回	症例検討 老年期①				
20 回	症例検討 老年期②				
21 回	症例検討 老年期③				
22 回	症例検討 老年期④ まとめ				
23 回	評価・治療方法の確認⑦				
24 回	評価・治療方法の確認⑧				
25 回	症例検討 気分障害①				
26 回	症例検討 気分障害②				
27 回	症例検討 気分障害③				
28 回	症例検討 気分障害④ まとめ				
29 回	評価・治療手技の確認⑨				
30 回	評価・治療手技の確認⑩				
教科書及び参考書	資料配布、所有している教科書を必要に応じて使用する。				
時間外学修及び留意事項	臨床実習に向けて、評価・治療手技等は授業時間のみならず、自主的に練習を行い、習熟を図ること。				
成績評価方法	症例検討の内容（70％）と授業への取り組み（30％）にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法総合演習Ⅱ	石垣純子 (作業療法士)	作業療法学科 4 年	演習	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして、国家試験合格に向けて教育を行う。 作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。特に、基礎医学・臨床医学分野に対して 4 年間学んだ知識と技術を整理し、国家資格を取得し専門職として活躍できるよう学修する。				
到達目標	1. 臨床医学分野に関して 4 年間学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができる。 2. 臨床医学の知識を習得し、作業療法を実践的に展開できる。 3. 作業療法士として、各疾患に対する作業療法の実施に必要な知識・技術を展開できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	講義		
2 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	グループ学習①		
3 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	グループ学習②		
4 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	グループ学習③		
5 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	グループ学習④		
6 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	グループ学習⑤		
7 回	専門基礎	解剖学・生理学・運動学	総復習		
8 回	専門基礎	一般臨床医学	講義①		
9 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習①		
10 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習②		
11 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習③		
12 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習④		
13 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑤		
14 回	専門基礎	一般臨床医学	総復習①		
15 回	専門基礎	一般臨床医学	講義②		
16 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑥		
17 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑦		
18 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑧		
19 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑨		
20 回	専門基礎	一般臨床医学	グループ学習⑩		
21 回	専門基礎	一般臨床医学	総復習②		
22 回	専門科目	主要疾患	講義①		
23 回	専門科目	主要疾患	グループ学習①		
24 回	専門科目	主要疾患	グループ学習②		
25 回	専門科目	主要疾患	グループ学習③		
26 回	専門科目	主要疾患	総復習①		
27 回	専門科目	主要疾患	講義②		
28 回	専門科目	主要疾患	グループ学習④		
29 回	専門科目	主要疾患	グループ学習⑤		
30 回	専門科目	主要疾患	総復習②		
教科書及び参考書		資料配布。必要に応じて国家試験対策に関連する参考書を準備すること。			
時間外学修及び留意事項		講義・復習時間だけでなく、自主的に学習に取り組むこと。			
成績評価方法		単元ごとに確認テストを行い総合的に評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法管理教育学	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科 4 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして、作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について教育する。 医療人として必要な職場においての管理業務と経済管理学、サービスの質を保証する公益性の管理について知識と実践を学修する。さらに、その管理業務にとって必要なリーダーとしての資質を学び、業務のなかでどのようにリーダーシップを発揮していくのかを実践する。				
到達目標	1.診療報酬制度および施設認可の仕組みや指導、監査について説明できる。 2.作業療法部門の開設方法および管理運営について説明できる。 3.作業療法部門のリスクマネジメントについて説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	作業療法士に求められる資質と倫理				
2 回	作業療法士に求められる資質と倫理				
3 回	日本の職能組織・専門組織				
4 回	日本の作業療法士の教育と卒後教育				
5 回	日本における医療制度と診療報酬				
6 回	日本における医療制度と診療報酬				
7 回	作業療法部門管理と運営				
8 回	作業療法部門管理と運営				
教科書及び参考書	標準作業療法学 作業療法概論、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	授業終了後には、授業で配られたプリントやノートを見ながら復習しておくこと。				
成績評価方法	筆記試験（50%）、課題提出（50%）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 職業倫理学	石垣純子 (作業療法士)	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・15
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして、臨床現場で求められる倫理観について教育を行う。 医療従事者は、個人として専門職として、対象者や社会の信頼に値する道徳および倫理を身につけ行動する必要がある。この授業では、作業療法士をめざすものとして求められる、役割と心構えについての理解を深め、適切に行動するための自覚と基本姿勢を学修する。				
到達目標	1. 人の健康と命に従事する作業療法士の職務を説明できる。 2. 職業倫理的側面における判断や意思決定において、医療職としての立場で考え、行動できる。 3. 対象者の多様な価値観を認識し、専門職としての共感的態度および倫理に基づいた行動できる能力を修得する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	基本的な品行の保持（礼儀とマナー）				
2 回	専門職意識（プロフェッショナリズム）①：医療倫理の 4 原則（自律尊重、無危害、善行、公平）				
3 回	専門職意識（プロフェッショナリズム）②：守秘義務				
4 回	専門職意識（プロフェッショナリズム）③：忠実性と正確性、中立と公平				
5 回	課題解決能力と学ぶ姿勢				
6 回	多職種連携				
7 回	作業療法の質の安全性の管理				
8 回	生涯にわたって学ぶ姿勢				
教科書及び参考書		資料配布			
時間外学修及び留意事項		講義後に必ず復習すること。			
成績評価方法		筆記試験にて評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法評価学	島田和人 （作業療法士）	作業療法学科 1 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法評価に関する教育を行う。 作業療法では、評価の目的を明確にして行う必要がある。また、評価結果から対応課題を抽出しその結果を統合と解釈する必要がある。この授業では、評価学の基礎を学ぶ。また、ICF の各因子に対する評価の目的、方法を学ぶ。				
到達目標	1. 評価の原則について説明できる。 2. 評価の目的、方法を説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	作業療法プロセスにおける評価とは				
2 回	作業療法評価と臨床的推論：要因分析のための評価				
3 回	作業療法評価と臨床的推論：疾患理解のための評価				
4 回	作業療法面接				
5 回	心身機能・身体構造の評価①				
6 回	心身機能・身体構造の評価②				
7 回	心身機能・身体構造の評価③				
8 回	心身機能・身体構造の評価④				
9 回	心身機能・身体構造の評価⑤				
10 回	活動障害の評価①：観察の意義				
11 回	活動障害の評価②：動作分析、作業分析				
12 回	参加制限の評価③				
13 回	背景因子の評価④				
14 回	ICF 演習				
15 回	事例検討				
教科書及び参考書	標準作業療法学専門分野 作業療法評価学、医学書院 標準作業療法学専門分野 作業療法概論、医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法概論）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
＜専門分野＞ 作業療法評価学実習Ⅰ	内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科2年	実技	単位・時間 実務家教員	3・90 ○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法評価に関する教育を行う。 作業療法の実施の前段階として、対象者を適切に評価することが必要である。この授業では、作業療法で行われている種々の評価法の意味と目的を理解し、実技を通して評価技術を修得する。				
到達目標	1. 作業療法で行う基本的な検査・測定を列挙できる。 2. 作業療法で行う検査・測定の目的と手順を説明できる。 3. 作業療法における検査・測定を実施できる。 4. 医療画像の評価を実施できる。 5. 検査・測定結果を適切に記録できる。				
授業計画					
	授 業 内 容		授 業 内 容		
1 回	作業療法評価の基本的考え方と解釈	23 回	脳神経検査		
2 回	観察法・面接法①	24 回	片麻痺機能検査①：Br-stage test		
3 回	観察法・面接法②	25 回	片麻痺機能検査②：FMA・MAL		
4 回	観察法・面接法③：COPM AMPS	26 回	片麻痺機能検査③：上田式片麻痺機能テスト		
5 回	意識・バイタルサイン測定	27 回	上肢機能評価①：STEF		
6 回	四肢形態計測	28 回	上肢機能評価②：MFT		
7 回	関節可動域測定①（上肢・下肢・手指）	29 回	摂食・嚥下機能検査		
8 回	関節可動域測定②（上肢・下肢・手指）	30 回	医療画像の診方①		
9 回	関節可動域測定③（上肢・下肢・手指）	31 回	医療画像の診方②		
10 回	関節可動域測定④（頸部・体幹）	32 回	医療画像の評価①		
11 回	徒手筋力検査①（上肢・手指）	33 回	医療画像の評価②		
12 回	徒手筋力検査②（上肢・手指）	34 回	高次脳機能評価①		
13 回	徒手筋力検査③（上肢・手指）	35 回	高齢期機能評価②		
14 回	徒手筋力検査④（下肢・体幹）	36 回	高齢期機能評価③		
15 回	徒手筋力検査⑤（下肢・体幹）	37 回	高齢期機能評価④		
16 回	感覚検査①（表在覚）	38 回	高齢期機能評価⑤		
17 回	感覚検査②（深部感覚・複合感覚）	39 回	発達過程評価①		
18 回	腱反射・病的反射	40 回	発達過程評価②		
19 回	姿勢反射検査	41 回	日常生活活動の評価①：FIM		
20 回	筋緊張検査	42 回	日常生活活動の評価②：FIM		
21 回	協調性検査	43 回	日常生活動作の評価③：BI		
22 回	バランス 協調運動機能検査	44 回	評価計画の立て方		
		45 回	評価の統合と解釈		
教科書及び参考書	標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学、医学書院 新・徒手筋力検査法、協同医書出版社 神経診療クロズアップ正しい病巣診断のコツ、メジカルビュー				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学他）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験（40%）、実技試験（60%）により成績評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法評価学実習Ⅱ	石垣純子 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法評価に関する教育を行う。 精神機能作業療法で行われている種々の評価法の意味と目的を理解し、実技を通して評価技術を修得する。さらに精神機能作業療法でかかわる統合失調症と感情障害について学修する。				
到達目標	1. 精神機能作業療法の基本的な評価方法が説明できる。 2. 精神機能作業療法の基本的な評価方法が実施できる。 3. 精神機能作業療法の基本的な疾患について説明できる。 4. 精神機能作業療法の基本的な評価を適切に統合し解釈できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	精神機能作業療法の基本的考え方と解釈①				
2 回	精神機能作業療法の基本的考え方と解釈②				
3 回	精神機能作業療法の評価・情報収集				
4 回	精神機能作業療法の評価・面接方法				
5 回	精神機能作業療法の評価・観察方法				
6 回	統合失調症の理解				
7 回	統合失調症の理解				
8 回	統合失調症の検査・評価				
9 回	統合失調症の検査・評価の実施				
10 回	統合失調症の検査・評価の実施				
11 回	感情障害の理解				
12 回	感情障害の理解				
13 回	感情障害の評価				
14 回	感情障害の検査・評価の実施				
15 回	感情障害の検査・評価の実施				
16 回	認知症の理解				
17 回	認知症の理解				
18 回	認知症の検査・評価				
19 回	認知症の検査・評価の実施				
20 回	認知症の検査・評価の実施				
21 回	精神機能作業療法で用いる検査・評価：パーソナリティ検査				
22 回	精神機能作業療法で用いる検査・評価：社会生活の評価				
23 回	精神機能作業療法で用いる検査・評価：QOL、興味の評価				
教科書及び参考書	精神疾患の理解と精神科作業療法、 中央法規 標準理学療法学・作業療法学 精神医学、 医学書院 標準作業療法学 作業療法評価学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（精神医学、作業療法評価学）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験（70％）実技試験（30％）により成績評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法評価学演習Ⅰ	島田和人 （作業療法士）	作業療法学科３年	演習	単位・時間	１・３０
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法評価に関する教育を行う。 評価実習では、作業療法評価、統合解釈、目標設定、治療プログラム立案までの作業療法プロセスを実施する。この授業では、対象者を理解するための知識と思考および技術を、事例検討を通し修得する。				
到達目標	1. 情報収集から作業療法検査・測定に必要な項目が列挙できる。 2. 検査結果が解釈できる。 3. 問題点を抽出し治療計画が立案できる。 4. 記録・報告の方法が適用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
１回	作業療法プロセス				
２回	情報収集、面接①				
３回	情報収集、面接②				
４回	仮設 ICF①				
５回	仮説 ICF②				
６回	作業療法評価計画の立案				
７回	作業療法評価の実施①				
８回	作業療法評価の実施②				
９回	作業療法評価の統合と解釈①				
10回	作業療法評価の統合と解釈②				
11回	作業療法評価の統合と解釈③				
12回	作業療法目標の設定				
13回	作業療法治療プログラムの立案①				
14回	作業療法治療プログラムの立案②				
15回	記録・レポートの作成方法				
教科書及び参考書	標準作業療法学専門分野 作業療法概論、医学書院 標準作業療法学専門分野 作業療法評価学、医学書院 標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学、医学書院 作業で語る事例報告 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学他）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	報告書（50％）ならびに発表（50％）を持って評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法評価学演習Ⅱ	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	演習	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして精神機能作業療法評価に関する教育を行う。 精神機能作業療法で基本となる観察の視点と記録・考察の視点について学修する。対象者を理解するための知識と思考および技術を、事例検討を通し学修する。				
到達目標	1. 精神機能作業療法の視点から、観察・記録ができる。 2. 評価の統合解釈ができる。 3. 事例検討を通し、精神機能作業療法の一連のプロセスを実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	精神機能作業療法のプロセス				
2 回	観察・記録の視点と方法				
3 回	観察および記録の実施①				
4 回	観察および記録の実施②				
5 回	観察および記録の実施③				
6 回	考察の方法				
7 回	考察の視点と記録①				
8 回	考察の視点と記録②				
9 回	考察の視点と記録③				
10 回	考察の視点と記録④				
11 回	評価：統合解釈①				
12 回	評価：統合解釈②				
13 回	問題点の抽出・目標設定				
14 回	事例検討①				
15 回	事例検討②				
教科書及び参考書	精神疾患の理解と精神科作業療法、 中央法規 標準理学療法学・作業療法学 精神医学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学実習ⅠⅡ等）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	レポートにて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法評価学総合演習	島田和人 内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	演習	単位・時間	2・60
	実務家教員			○	
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法評価に関する教育を行う。 評価実習では、作業療法評価、統合解釈、目標設定、治療プログラム立案までの作業療法プロセスを実施する。この授業では、評価実習に向けた知識と思考および技術を、事例検討を通して修得する。				
到達目標	1. 各疾患における情報収集から作業療法検査・測定に必要な項目が列挙できる。 2. 各疾患における検査結果が解釈できる。 3. 問題点を抽出し治療計画が立案できる。 4. レポートにより症例報告ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	事例検討：中枢神経疾患①				
2 回	事例検討：中枢神経疾患②				
3 回	事例検討：中枢神経疾患③				
4 回	事例検討：中枢神経疾患④				
5 回	事例検討：中枢神経疾患⑤				
6 回	事例検討：中枢神経疾患⑥				
7 回	事例検討：中枢神経疾患⑦				
8 回	事例検討：中枢神経疾患⑧				
9 回	事例検討：整形疾患①				
10 回	事例検討：整形疾患②				
11 回	事例検討：整形疾患③				
12 回	事例検討：整形疾患④				
13 回	事例検討：整形疾患⑤				
14 回	事例検討：整形疾患⑥				
15 回	事例検討：整形疾患⑦				
16 回	事例検討：整形疾患⑧				
17 回	事例検討：高齢期疾患①				
18 回	事例検討：高齢期疾患②				
19 回	事例検討：高齢期疾患③				
20 回	事例検討：高齢期疾患④				
21 回	事例検討：高齢期疾患⑤				
22 回	事例検討：高齢期疾患⑥				
23 回	事例検討：高齢期疾患⑦				
24 回	事例検討：小児疾患①				
25 回	事例検討：小児疾患②				
26 回	事例検討：小児疾患③				
27 回	事例検討：小児疾患④				
28 回	事例検討：小児疾患⑤				
29 回	事例検討：小児疾患⑥				
30 回	事例検討：小児疾患⑦				
教科書及び参考書	標準作業療法学 作業療法評価学、身体機能作業療法学、高齢期作業療法学、発達過程作業療法学他、医学書院 作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた、医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	レポートにて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法治療学	島田和人 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法治療に関する教育を行う。 作業療法で用いる治療方法と思考過程について、修得する。また、病期や領域に応じた治療の枠組みについて学修する。				
到達目標	1. 作業療法の目的、方法、対象について説明できる。 2. 作業療法の枠組みについて説明できる。 3. 病期に応じた作業療法が説明できる。 4. 領域別作業療法について説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	作業ができるとは				
2 回	作業療法の目的と方法、対象①				
3 回	作業療法の目的と方法、対象②				
4 回	作業療法の枠組み①：トップダウンアプローチ				
5 回	作業療法の枠組み②：ボトムアップアプローチ				
6 回	作業療法の枠組み③：臨床的推論				
7 回	作業療法の枠組み④：EBM				
8 回	作業療法の枠組み⑤：リスク管理				
9 回	病期に応じた作業療法①				
10 回	病期に応じた作業療法②				
11 回	領域に応じた作業療法①				
12 回	領域に応じた作業療法②				
13 回	身体機能作業療法の実際①				
14 回	身体機能作業療法の実際②				
15 回	身体機能作業療法の実際③				
16 回	身体機能作業療法の実際④				
17 回	発達過程作業療法の実際①				
18 回	発達過程作業療法の実際②				
19 回	高齢期作業療法の治療原理①				
20 回	高齢期作業療法の治療原理②				
21 回	高齢期作業療法の治療原理③				
22 回	高齢期作業療法の治療原理④				
23 回	精神機能作業療法の治療原理と理論①作業療法の構造と実践形態				
24 回	精神機能作業療法の治療原理と理論②作業療法実践のプロセス				
25 回	精神機能作業療法の治療原理と理論③回復状態に応じた生活支援				
26 回	精神機能作業療法の治療原理と理論④作業の要素① 作業・作業活動				
27 回	精神機能作業療法の治療原理と理論⑤作業の要素② 自己活用、個人・集団・場				
28 回	精神機能作業療法の治療原理と理論⑥作業の要素③ 連携・チームアプローチ				
29 回	精神機能作業療法の治療原理と理論⑦精神科で用いる理論				
30 回	精神機能作業療法の治療原理と理論⑧精神科で用いる理論				
教科書及び参考書	標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学、医学書院 精神疾患の理解と精神科作業療法、 中央法規				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法概論、作業療法評価学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習をすること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法治療学実習Ⅰ	島田和人 (作業療法士)	作業療法学科3年	実技	単位・時間	3・90
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法治療に関する教育を行う。 身体機能作業療法を学ぶうえで必要な基礎的知識を学び、身体機能作業療法に必要な治療技法の原則について修得する。また、治療立案と段階付け、リスク管理について修得する。				
到達目標	1. 身体機能作業療法の実践に向けて、評価から治療実施までの作業療法過程について説明できる。 2. 作業療法における治療の基礎となる治療理論と、基本的治療原理を理解し活用できる。 3. 基本となるいくつかの治療手技を実践できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	作業療法における治療の目的		23 回	感覚・知覚再教②	
2 回	リスクマネジメントとは		24 回	感覚・知覚再教③	
3 回	リスク管理①		25 回	廃用症候群とその対応①	
4 回	リスク管理②		26 回	廃用症候群とその対応②	
5 回	治療プログラム立案 ①		27 回	廃用症候群とその対応③	
6 回	治療プログラム立案 ②		28 回	物理療法①	
7 回	関節可動域の維持・拡大①		29 回	物理療法②	
8 回	関節可動域の維持・拡大②		30 回	物理療法③	
9 回	関節可動域の維持・拡大③		31 回	姿勢、バランスとその治療①	
10 回	筋力と筋持久力の維持・増強①		32 回	姿勢、バランスとその治療②	
11 回	筋力と筋持久力の維持・増強②		33 回	姿勢、バランスとその治療③	
12 回	筋力と筋持久力の維持・増強③		34 回	上肢機能①	
13 回	筋緊張異常とその治療①		35 回	上肢機能②	
14 回	筋緊張異常とその治療②		36 回	上肢機能③	
15 回	筋緊張異常とその治療③		37 回	上肢機能④	
16 回	不随運動とその治療①		38 回	上肢機能⑤	
17 回	不随運動とその治療②		39 回	上肢機能⑥	
18 回	不随運動とその治療③		40 回	作業の治療的応用①	
19 回	協調運動障害とその治療①		41 回	作業の治療的応用②	
20 回	協調運動障害とその治療②		42 回	作業の治療的応用③	
21 回	協調運動障害とその治療③		43 回	事例検討	
22 回	感覚・知覚再教①		44 回	事例検討	
			45 回	事例検討	
教科書及び参考書		作業で語る事例報告 作業療法のレジメの書き方考え方 医学書院			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学他）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。			
成績評価方法		実技（50%）、筆記試験（50%）にて評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法治療学実習Ⅱ	石澤正夫 （作業療法士）	作業療法学科 3 年	講義・実技	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法治療に関する教育を行う。 精神機能作業療法を学ぶ上で必要な疾患の障害特性と治療プロセスを学修する。さらに治療手段である集団精神療法、認知行動療法、認知リハビリテーション、社会生活技能訓練について学修する。				
到達目標	1.精神機能作業療法で必要な疾患の障害特性と治療プロセスを説明できる。 2.基本となる治療手段を実践できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	統合失調症① 障害特性				
2 回	統合失調症② 治療プロセス				
3 回	気分障害① 障害特性				
4 回	気分障害② 治療プロセス				
5 回	神経症性障害① 障害特性				
6 回	神経症性障害② 治療プロセス				
7 回	薬物関連障害（アルコール依存）① 障害特性				
8 回	薬物関連障害（アルコール依存）② 治療プロセス				
9 回	パーソナリティ障害① 障害特性				
10 回	パーソナリティ障害② 治療プロセス				
11 回	てんかん① 障害特性				
12 回	てんかん② 治療プロセス				
13 回	器質性精神障害① 障害特性				
14 回	器質性精神障害② 治療プロセス				
15 回	知的障害① 障害特性				
16 回	知的障害② 治療プロセス				
17 回	広汎性発達障害① 障害特性（ADHD、LD、ASD、等）				
18 回	広汎性発達障害② 治療プロセス				
19 回	作業療法に必要な理論①				
20 回	作業療法に必要な理論②				
21 回	集団精神療法（レク、感覚統合）①				
22 回	集団精神療法（レク、感覚統合）②				
23 回	集団精神療法（レク、感覚統合）③				
24 回	集団精神療法（レク、感覚統合）④				
25 回	認知行動療法（コラム法）①				
26 回	認知行動療法（コラム法）②				
27 回	認知リハビリテーション（コグトレ、ニア、スキット）①				
28 回	認知リハビリテーション（コグトレ、ニア、スキット）②				
29 回	社会生活技能訓練 SST①				
30 回	社会生活技能訓練 SST②				
教科書及び参考書	精神疾患の理解と精神作業療法、 中央法規 作業療法学全書作業治療学 精神障害、 共同医書出版 標準作業療法学 精神医学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（精神医学、作業療法評価学、作業療法治療学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験（70%）実技試験（30%）により成績評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 作業療法治療学実習Ⅲ	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	実技	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法治療に関する教育を行う。小児・高次脳機能障害を持つ対象者への治療を学ぶうえで必要な基礎的知識を修得し、治療技法の原則について学修する。また、治療の方法や段階付け、リスク管理について学修する。				
到達目標	1. 疾患ごとの評価から治療実施までの作業療法過程について説明できる。 2. 治療の基礎となる治療理論と、基本的治療原理を理解し活用できる。 3. 各疾患に対応した治療手技を実践できる。 4. 摂食嚥下や喀痰吸引における手技を実践できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	高次脳機能障害とは				
2 回	脳局在と高次脳機能障害（画像診断）①				
3 回	脳局在と高次脳機能障害（画像診断）②				
4 回	注意障害に対する作業療法①				
5 回	注意障害に対する作業療法②				
6 回	記憶障害に対する作業療法①				
7 回	記憶障害に対する作業療法②				
8 回	失語症に対する作業療法①				
9 回	失語症に対する作業療法②				
10 回	失行、失認に対する作業療法①				
11 回	失行、失認に対する作業療法②				
12 回	半側空間無視に対する作業療法①				
13 回	半側空間無視に対する作業療法②				
14 回	遂行機能障害に対する作業療法①				
15 回	遂行機能障害に対する作業療法②				
16 回	脳性麻痺に対する作業療法①				
17 回	脳性麻痺に対する作業療法②				
18 回	脳性麻痺に対する作業療法③				
19 回	脳性麻痺に対する作業療法④				
20 回	筋ジストロフィー症に対する作業療法①				
21 回	筋ジストロフィー症に対する作業療法②				
22 回	筋ジストロフィー症に対する作業療法③				
23 回	二分脊椎症に対する作業療法①				
24 回	二分脊椎症に対する作業療法②				
25 回	二分脊椎に対する作業療法③				
26 回	喀痰吸引①				
27 回	喀痰吸引②				
28 回	喀痰吸引③				
29 回	喀痰吸引④				
30 回	喀痰吸引⑤				
教科書及び参考書	標準作業療法学 発達過程作業療法学 、医学書院 標準作業療法学 高次脳機能障害作業療法学 、医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（作業療法治療技術論等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	実技（30%）、筆記試験（70%）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法治療学演習Ⅰ	島田和人 内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科3年	実技	単位・時間	3・90
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして作業療法治療に関する教育を行う。 評価実習で経験した症例をもとに、実施した評価と統合解釈を再検討する。また、そこから抽出された問題の分析、目標設定と治療プログラムの再検討を行い、実際に立案した治療プログラムを具体的に検討する。そして、模擬症例を用いて治療介入について学ぶ。				
到達目標	1. 実施した評価の妥当性と統合解釈の再検討ができる。 2. 問題点および目標設定の再検討ができる。 3. 目標を達成するための治療プログラムを立案できる。 4. 立案したプログラムを実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容		授 業 内 容		
1回	治療プログラムの立案・検討①：	23回	心身機能・身体構造に対する介入⑤		
2回	治療プログラムの立案・検討②：	24回	心身機能・身体構造に対する介入⑥		
3回	治療プログラムの立案・検討③：	25回	活動に対する介入①		
4回	治療プログラムの立案・検討④：	26回	活動に対する介入②		
5回	治療プログラムの立案・検討⑤：	27回	活動に対する介入③		
6回	治療プログラムの立案・検討⑥：	28回	活動に対する介入④		
7回	治療プログラムの立案・検討⑦：	29回	活動に対する介入⑤		
8回	治療プログラムの立案・検討⑧：	30回	活動に対する介入⑥		
9回	治療プログラムの立案・検討⑨：	31回	参加に関する介入①		
10回	症例報告書の再検討①	32回	参加に関する介入②		
11回	症例報告書の再検討②	33回	参加に関する介入③		
12回	症例報告書の再検討③	34回	参加に関する介入④		
13回	症例報告書の再検討④	35回	参加に関する介入⑤		
14回	症例報告書の再検討⑤	36回	参加に関する介入⑥		
15回	症例報告書の再検討⑥	37回	個人・環境に関する介入①		
16回	症例報告書の再検討⑦	38回	個人・環境に関する介入②		
17回	症例報告書の再検討⑧	39回	個人・環境に関する介入③		
18回	症例報告書の再検討⑨	40回	個人・環境に関する介入④		
19回	心身機能・身体構造に対する介入①	41回	個人・環境に関する介入⑤		
20回	心身機能・身体構造に対する介入②	42回	個人・環境に関する介入⑥		
21回	心身機能・身体構造に対する介入③	43回	まとめ		
22回	心身機能・身体構造に対する介入④	44回	まとめ		
		45回	まとめ		
教科書及び参考書	標準作業療法学 作業療法概論、作業療法評価学、身体機能作業療法学他、 医学書院 作業で語る事例報告 作業療法レジメの書きかた・考えかた 、医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として、関連科目（作業療法評価実習等）を修得しておくこと。 講義後は必ず復習すること。				
成績評価方法	レポート（50%）、発表（50%）で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法治療学演習Ⅱ	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	演習	単位・時間	2・60
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして疾患別の精神障害に対する作業療法治療学に関して症例を通し教育を行う。 精神疾患の事例検討を通じて、障害特性に基づいた評価・治療プログラム立案する。				
到達目標	1.精神障害作業療法の知識をもとに、障害特性に基づいた評価と治療計画の立案ができる。 2.模擬症例を活用し、臨床に即した治療プログラムが立案できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	統合失調症 1 急性期における作業療法の展開				
2 回	統合失調症 2 ケーススタディ① 情報収集・評価の解釈				
3 回	統合失調症 3 ケーススタディ② 統合・目標設定				
4 回	統合失調症 4 ケーススタディ③ 治療プログラム立案				
5 回	統合失調症 5 慢性期における作業療法の展開				
6 回	統合失調症 6 ケーススタディ① 情報収集・評価の解釈				
7 回	統合失調症 7 ケーススタディ② 統合・目標設定				
8 回	統合失調症 8 ケーススタディ③ 治療プログラム立案				
9 回	統合失調症 9 グループワーク課題の発表				
10 回	気分障害 1 作業療法の展開				
11 回	気分障害 2 ケーススタディ① 情報収集・評価の解釈				
12 回	気分障害 3 ケーススタディ② 統合・目標設定				
13 回	気分障害 4 ケーススタディ③ 治療プログラム立案				
14 回	気分障害 5 グループワーク課題の発表				
15 回	神経症性障害 1 作業療法の展開				
16 回	神経症性障害 2 ケーススタディ① 情報収集・評価の解釈				
17 回	神経症性障害 3 ケーススタディ② 統合・目標設定				
18 回	神経症性障害 4 ケーススタディ③ 治療プログラム立案				
19 回	神経症性障害 5 グループワーク課題の発表				
20 回	器質性精神障害 1 作業療法の展開				
21 回	器質性精神障害 2 ケーススタディ① 情報収集・評価の解釈・統合・目標設定				
22 回	器質性精神障害 3 ケーススタディ② 治療プログラム立案				
23 回	地域生活支援における作業療法の展開（訪問リハビリ・児童思春期・退院支援等）				
24 回	ケーススタディ①情報収集・評価の解釈				
25 回	ケーススタディ②統合・目標設定				
26 回	ケーススタディ③治療プログラム立案				
27 回	グループワーク課題の発表				
28 回	まとめ①				
29 回	まとめ②				
30 回	まとめ③				
教科書及び参考書	精神疾患の理解と精神作業療法、 中央法規 作業療法学全書作業治療学 精神障害、 共同医書出版 標準作業療法学 精神医学、 医学書院				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（精神医学、作業療法評価学、作業療法治療学）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 義肢装具学Ⅰ	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして義肢、装具療法に関する教育を行う。 装具の基本的知識を理解し、上肢装具・下肢装具・体幹装具の使用目的の分類（種類）から適応疾患を学修する。また、スプリントの作製を実際に体験する。				
到達目標	1. 装具の目的や原理を説明できる。 2. 各種装具の名称や機能ならびに構造が説明できる。 3. 各種装具の適合判定、アライメント調整方法が説明できる。 4. 対象疾患における適応が説明でき、スプリントを作製できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	装具学総論：装具の歴史				
2 回	下肢装具・体幹装具・上肢装具総論				
3 回	作業療法士に必要な装具各論：上肢装具の分類と目的				
4 回	作業療法士に必要な装具各論：スプリントの目的、使用、チェックアウト				
5 回	適応疾患例（装具）：CVA				
6 回	適応疾患例（装具）：頸髄損傷				
7 回	適応疾患例（装具）：関節リウマチ				
8 回	適応疾患例（装具）：末梢神経損傷				
9 回	適応疾患例（装具）：手の外科、熱傷				
10 回	スプリント作製 安静用スプリント（カックアップ）				
11 回	スプリント作製 安静用スプリント（カックアップ）				
12 回	スプリント作製 安静用スプリント（カックアップ）				
13 回	スプリント作製 機能的スプリント（短対立スプリント）				
14 回	スプリント作製 機能的スプリント（短対立スプリント）				
15 回	スプリント作製 機能的スプリント（短対立スプリント）				
教科書及び参考書		作業療法全書作業療法技術学 義肢・装具学、協同医書出版社			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（運動機能解剖学、運動学Ⅰ他）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習すること。			
成績評価方法		筆記試験（80%）、スプリント作成（20%）にて評価する。 スプリント課題が未提出の学生は、筆記試験を受験することはできない。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 義肢装具学Ⅱ	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして義肢、装具療法に関する教育を行う。 切断の病態について理解し、適切な評価、治療について概説する。また、各種切断と義手・義足の知識と適切なチェックアウト方法を学修する。また、福祉用具の種類や適合について学修する。				
到達目標	1. 各種切断と義肢ついで知識を説明できる。 2. 適切な適合判定、作業療法治療について説明できる。 3. 福祉用具の種類や適合を説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	義肢学概 切断の原因・種類				
2 回	法的制度 義手の種類				
3 回	断端管理、幻肢痛について				
4 回	作業療法士に必要な義手各論：義手の構成要素・義手の訓練①				
5 回	作業療法士に必要な義手各論：義手の構成要素・義手の訓練②				
6 回	作業療法士に必要な義手各論：義手のチェックアウト①				
7 回	作業療法士に必要な義手各論：義手のチェックアウト②				
8 回	適応疾患例：前腕切断 上腕切断				
9 回	適応疾患例：下肢切断				
10 回	車いすの構造				
11 回	福祉用具				
12 回	住宅環境				
13 回	自助具の作製①				
14 回	自助具の作製②				
15 回	自助具の作製③				
教科書及び参考書	作業療法全書作業療法技術学 義肢・装具学、協同医書出版社 OT・PT のための住環境整備論、三輪書店				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（運動機能解剖学、運動学Ⅰ他）の内容を復習すること。 講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 日常生活活動学	内海卓哉 島田和人 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	2・60
	実務家教員			○	
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして疾患別の日常生活活動の特徴および支援に関して教育を行う。 生活を構成する ADL、IADL の概念や特徴について学修する。また、各行為の評価方法や支援方法について学修する。				
到達目標	1. ADL の概念、範囲、意義を説明できる。 2. 環境や文化による ADL の違いを説明できる。 3. 各行為の特徴と構成要素を把握し、評価と支援を説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション、ADL の概念、範囲、意義、				
2 回	日本人特有の生活様式 ADL と文化、福祉用具・環境				
3 回	行為別 ADL：食事①（特徴と構成要素）				
4 回	行為別 ADL：食事②（工程分析）				
5 回	行為別 ADL：食事③（評価）				
6 回	行為別 ADL：食事④（支援方法）				
7 回	行為別 ADL：整容①（特徴と構成要素）				
8 回	行為別 ADL：整容②（工程分析）				
9 回	行為別 ADL：整容③（評価）				
10 回	行為別 ADL：整容④（支援方法）				
11 回	行為別 ADL：更衣①（特徴と構成要素）				
12 回	行為別 ADL：更衣②（工程分析）				
13 回	行為別 ADL：更衣③（評価）				
14 回	行為別 ADL：更衣④（支援方法）				
15 回	行為別 ADL：排泄①（特徴と構成要素）				
16 回	行為別 ADL：排泄②（工程分析）				
17 回	行為別 ADL：排泄③（評価）				
18 回	行為別 ADL：排泄④（支援方法）				
19 回	行為別 ADL：入浴①（特徴と構成要素）				
20 回	行為別 ADL：入浴②（工程分析）				
21 回	行為別 ADL：入浴③（評価）				
22 回	行為別 ADL：入浴④（支援方法）				
23 回	行為別 IADL：家事①（種類、特徴と構成要素）				
24 回	行為別 IADL：家事②（工程分析）				
25 回	行為別 IADL：家事③（評価）				
26 回	行為別 IADL：家事④（支援方法）				
27 回	行為別 IADL：社会活動①家事（種類、特徴と構成要素）				
28 回	行為別 IADL：社会活動②（工程分析）				
29 回	行為別 IADL：社会活動③（評価）				
30 回	行為別 IADL：社会活動④（支援方法）				
教科書及び参考書	標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学、医学書院 姿勢と動作 ADL その基礎から応用、メジカルフレンド社				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（病態運動学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験にて評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 日常生活活動学演習	内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	演習	単位・時間	3・90
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして疾患別の日常生活活動の支援に関して症例を通し教育を行う。 作業療法の対象となる主要な疾患とその障害が、ADL に及ぼす影響について理解し、対象者が必要とする生活技能や社会活動を支援するための評価と支援方法を学修する。				
到達目標	1. 日常生活における諸動作について、目的に合わせた介助方法を選択し、実施できる。 2. 障害別 ADL について、評価を実施できる。 3. 障害別 ADL について、指導と援助を実施できる。 4. 障害別 ADL に合わせた代償アプローチを選択し、実施できる。				
授業計画					
	授 業 内 容			授 業 内 容	
1 回	ADL 介助の意義と知識		23 回	脊髄損傷に対する ADL②	
2 回	ADL 介助方法（実技）起居動作①		24 回	脊髄損傷に対する ADL③	
3 回	ADL 介助方法（実技）起居動作②		25 回	脊髄損傷に対する ADL④	
4 回	ADL 介助方法（実技）起居動作③		26 回	脊髄損傷に対する ADL⑤	
5 回	ADL 介助方法（実技）移乗・移動①		27 回	脊髄損傷に対する ADL⑥	
6 回	ADL 介助方法（実技）移乗・移動②		28 回	骨折に対する ADL①	
7 回	脳血管障害に対する ADL①		29 回	骨折に対する ADL②	
8 回	脳血管障害に対する ADL②		30 回	骨折に対する ADL③	
9 回	脳血管障害に対する ADL③		31 回	関節リウマチに対する ADL①	
10 回	脳血管障害に対する ADL④		32 回	関節リウマチに対する ADL②	
11 回	脳血管障害に対する ADL⑤		33 回	関節リウマチに対する ADL③	
12 回	脳血管障害に対する ADL⑥		34 回	循環器疾患に対する ADL①	
13 回	脳血管障害に対する ADL⑦		35 回	循環器疾患に対する ADL②	
14 回	脳血管障害に対する ADL⑧		36 回	呼吸器疾患に対する ADL①	
15 回	脳血管障害に対する ADL⑨		37 回	呼吸器疾患に対する ADL②	
16 回	高次脳機能障害に対する ADL①		38 回	失調症に対する ADL①	
17 回	高次脳機能障害に対する ADL②		39 回	失調症に対する ADL②	
18 回	高次脳機能障害に対する ADL③		40 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具①	
19 回	パーキンソン病に対する ADL①		41 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具②	
20 回	パーキンソン病に対する ADL②		42 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具③	
21 回	パーキンソン病に対する ADL③		43 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具④	
22 回	脊髄損傷に対する ADL①		44 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具⑤	
			45 回	環境整備と作業療法：福祉機器と自助具⑥	
教科書及び参考書		標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学、医学書院 姿勢と動作 ADL その基礎から応用、メジカルフレンド社			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（作業療法評価学、病態運動学Ⅰ等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。			
成績評価方法		筆記試験（30%）、実技試験（70%）にて評価する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 地域作業療法学	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	講義	単位・時間	1・30
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして地域作業療法の領域に関して教育を行う。 地域医療・リハビリテーションの成り立ちと概要、その中で連携の大切さや支援方法を学修する。				
到達目標	障害者の自立生活、および社会保障と社会資源、ケアマネジメントについて正しく理解し、在宅障害者に対するケアマネジメント、および作業療法の指導・援助・技術を修得する。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション 地域を知る				
2 回	地域リハビリテーションの流れを捉える				
3 回	地域作業療法を考察する				
4 回	制度・施策とのつながりを知る ① (社会保障制度)				
5 回	制度・施策とのつながりを知る ② (介護保険制度)				
6 回	制度・施策とのつながりを知る ③ (介護保険制度)				
7 回	社会生活支援を理解する 多職種の連携と協働を理解する				
8 回	地域作業療法の枠組みを理帰する 住環境と地域づくりを考察する				
9 回	支援プログラムとマネジメントを学ぶ：個別支援プログラム・集団支援プログラム				
10 回	支援プログラムとマネジメントを学ぶ：リスクマネジメント 精神保健と地域リハビリテーション				
11 回	MTDLP の概論、演習				
12 回	MTDLP の概論、演習				
13 回	MTDLP の概論、演習				
14 回	MTDLP の概論、演習				
15 回	MTDLP の概論、演習				
教科書及び参考書	標準作業療法学 地域作業療法学、 医学書院				
時間外学修および留意事項	事前学修として既習の関連科目（リハビリテーション概論、チーム医療論、地域包括マネジメント論）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 地域作業療法学演習	鈴木竜平 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	演習	単位・時間	1・15
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして地域作業療法の領域に関して教育を行う。 地域作業療法では、生活行為の向上を図るための評価および支援方法として、生活行為向上マネジメントが用いられている。この授業では、生活行為向上マネジメントの概念と実際の活用について学修する。				
到達目標	1. 生活行為向上マネジメントの概要を説明できる。 2. 生活行為向上マネジメントで用いられる関連シートを分類し、活用できる。 3. 生活行為向上マネジメントの結果を記録し解釈できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション				
2 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討①				
3 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討②				
4 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討③				
5 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討④				
6 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討⑤				
7 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討⑥				
8 回	生活行為向上マネジメント（MTDLP）事例検討⑦				
教科書及び参考書		標準作業療法学 作業療法評価学、医学書院			
時間外学修及び留意事項		事前学修として既習の関連科目（地域作業療法学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。			
成績評価方法		筆記試験（50%）、演習シート作成（50%）にて評価する。 演習シートが未提出の学生は、筆記試験を受験することはできない。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	通年
＜専門分野＞ 職業関連活動学	石澤正夫 (作業療法士)	作業療法学科 3 年	講義	単位・時間	2・45
				実務家教員	○
授業概要	作業療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床経験を生かして就労支援における作業療法に関して教育を行う。 障害者の就労や必要な関連法規について理解し、作業療法における支援やとらえ方について学修する。				
到達目標	1.障害者の就労問題が説明できる。 2.就労に必要な制度について説明できる。 3.作業療法における支援やとらえ方について理解し、各分野に応用できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
1 回	オリエンテーション 職業リハビリテーションの歴史・意義等について				
2 回	障害者の就労支援における法制度について				
3 回	日本における障害者雇用の実態について				
4 回	職業リハビリテーションの原理について				
5 回	職業リハビリテーション領域における関連職種について				
6 回	職業リハビリテーションにおける作業療法（士）の機能と役割（1）				
7 回	職業リハビリテーションにおける作業療法（士）の機能と役割（2）				
8 回	ジョブコーチの役割と支援技術（1）				
9 回	ジョブコーチの役割と支援技術（2）				
10 回	職業能力に対する評価について（1）				
11 回	職業能力に対する評価について（2）				
12 回	就労支援における作業療法 評価の過程				
13 回	就労支援における作業療法 評価バッテリー				
14 回	就労支援における作業療法 実習（GATB）				
15 回	対象者の特性と支援内容について（身体障害者領域）				
16 回	対象者の特性と支援内容について（身体障害者領域）				
17 回	対象者の特性と支援内容について（高次脳機能障害者領域）				
18 回	対象者の特性と支援内容について（高次脳機能障害者領域）				
19 回	対象者の特性と支援内容について（精神障害者領域）				
20 回	対象者の特性と支援内容について（精神障害者領域）				
21 回	対象者の特性と支援内容について（知的障害者領域）				
22 回	対象者の特性と支援内容について（発達障害者領域）				
23 回	対象者の特性と支援内容について（発達障害者領域）				
教科書及び参考書	就労支援の作業療法基礎から臨床実践まで、医歯薬出版				
時間外学修及び留意事項	事前学修として既習の関連科目（リハビリテーション概論、一般臨床医学、精神医学等）の内容を復習すること。講義後に必ず復習すること。				
成績評価方法	筆記試験で評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 作業療法見学実習	石垣純子 (作業療法士)	作業療法学科 1 年	実技	単位・時間	1・45
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する作業療法士の指導の下、見学を通して作業療法に関する実践的教育を行う。 見学することで臨床における作業療法士の業務・役割を理解する。また、医療人としての行動・態度について学ぶ。				
到達目標	1.対象者との関わりを持つことにより、これから学ぶ対象者の障害像を大まかに説明できる。 2.実習を通じて、学生自身が作業療法のイメージを構築できる。 3.病院あるいは施設における作業療法士の役割について説明できる。 4.作業療法士の資質について説明できる。 5.学生として適切な行動ができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	医療人としてふさわしい態度で取り込むこと。 課題が未提出の者はセミナーへの出席を認めない。				
成績評価方法	実習状況、セミナー、提出課題で総合的に評価し単位を認定する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
＜専門分野＞ 地域作業療法実習	内海卓哉 (作業療法士)	作業療法学科 2 年	実習	単位・時間	3・135
				実務家教員	○
授業概要	地域で生活する人々に対する保健・医療、介護、福祉施設における活動の実際について、地域包括ケアシステムの意義と多職種連携と協働によるチームアプローチの視点を学ぶとともに、作業療法士の役割について学修する。				
到達目標	1.地域包括ケアシステムの意義について説明できる。 2.多職種連携と協働によるチームアプローチについて説明できる。 3.地域で生活する人々の健康状態や生活課題に応じた、ケアマネジメントについて、作業療法の視点と関連付けることができる。 4.地域包括ケアシステムでの作業療法士の役割が説明できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		なし			
時間外学修及び留意事項		事前学習において、自分が実習する施設の概要、関係機関と関連職種の機能と関連した政策・法律・制度等をしらべて実習に活用できるようにすること。 また、実習後のセミナーに向行けて事後準備を行うこと。発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。			
成績評価方法		実習状況（50％）課題提出（20％）セミナー（30％）で総合判定し単位を認定する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 精神障害領域 作業療法実習	内海卓哉 （作業療法士）	作業療法学科 2 年	実習	単位・時間	2・90
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する作業療法士の指導の下、精神障害領域の見学を通して作業療法に関する実践的教育を行う。 精神科領域の臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価・治療の見学、情報の整理を行う。				
到達目標	1.精神科領域における作業療法の評価・治療を理解できる。 2.記録・報告をすることができる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書		精神障害と作業療法、三輪書店			
時間外学修及び留意事項		事前学修として作業療法概論の内容を理解しておくこと。 医療人としてふさわしい態度で取り込むこと。 課題が未提出の者はセミナーへの出席を認めない。			
成績評価方法		実習状況（50％）プレテスト（筆記）（20％）セミナー（30％）で総合判定し単位を認定する。			

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
＜専門分野＞ 作業療法評価実習	作業療法学科 全教員	作業療法学科 3 年	実習	単位・時間	7・315
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する作業療法士の指導の下、作業療法評価の一連の過程に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価の一連のプロセスを実践し、目標設定、作業療法プログラムの立案を行う。				
到達目標	1.各疾患に応じて適切な作業療法評価が実施できる。 2.各疾患・作業療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、作業療法アプローチが設定できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	事前学修として作業療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。				
成績評価方法	プレテスト（筆記・実技）（20％）、評価実習（40％）、実習後セミナー（40％）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	前期
<専門分野> 総合臨床実習Ⅰ	作業療法学科 全教員	作業療法学科 4 年	実習	単位・時間	9・405
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する作業療法士の指導の下、一連の作業療法に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価ならびに治療を実施する。さらに、対象者の変化に応じて再評価を行い、治療の効果判定ならびに治療プログラムの修正を実施する。				
到達目標	1.各疾患に応じて適切な作業療法評価が実施できる。 2.各疾患・作業療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、作業療法アプローチが設定できる。 3.各疾患・作業療法対象者に応じてリスクを考慮し作業療法アプローチが実施できる。 4.対象者の変化に応じて、再評価が実施でき、ゴール、作業療法アプローチが変更できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	事前学修として作業療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。また、評価実習における反省点の改善に努め、評価・治療の実技練習も繰り返し行うこと。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。				
成績評価方法	プレテスト（筆記・実技）（20％）、治療実習（40％）、実習後セミナー（40％）を総合的に評価する。				

授業科目名	担当教員	対象者	講義形式	開講時期	後期
<専門分野> 総合臨床実習Ⅱ	作業療法学科 全教員	作業療法学科 4 年	実習	単位・時間	9・405
				実務家教員	○
授業概要	臨床現場に従事する作業療法士の指導の下、一連の作業療法に関する実践的教育を行う。 臨床実習施設において、作業療法士の指導・監督のもと作業療法評価ならびに治療を実施する。さらに、対象者の変化に応じて再評価を行い、治療の効果判定ならびに治療プログラムの修正を実施する。				
到達目標	1.各疾患に応じて適切な作業療法評価が実施できる。 2.各疾患・作業療法対象者に応じて障害構造を把握し、ゴール、作業療法アプローチが設定できる。 3.各疾患・作業療法対象者に応じてリスクを考慮し作業療法アプローチが実施できる。 4.対象者の変化に応じて、再評価が実施でき、ゴール、作業療法アプローチが変更できる。				
授業計画					
	授 業 内 容				
	臨床実習実施要綱に従う。				
教科書及び参考書	なし				
時間外学修及び留意事項	事前学修として作業療法評価学や解剖学等の基礎医学を復習すること。また、治療実習Ⅰにおける反省点の改善に努め、評価・治療の実技練習も繰り返し行うこと。 発表資料が期限までに提出されない場合には、セミナーへの出席を認めない。 実習前指導内容を確認し、医療人としてふさわしい態度で取り組むこと。				
成績評価方法	プレテスト（筆記・実技）（20%）、治療実習（40%）、実習後セミナー（40%）を総合的に評価する。				

実務家教員による講義

科目名	単位数	時間数	担当教員
作業療法概論	2	60	島田和人
基礎作業学実習	1	45	石澤正夫
病態運動学Ⅰ	2	60	内海卓哉
病態運動学Ⅱ	2	60	内海卓哉
作業療法研究法Ⅰ	1	30	鈴木竜平
作業療法研究法Ⅱ	3	90	鈴木竜平
作業療法総合演習Ⅰ	2	60	島田和人
作業療法総合演習Ⅱ	2	60	石垣純子
作業療法管理教育学	1	15	鈴木竜平
職業倫理学	1	15	石垣純子
作業療法評価学	1	30	島田和人
作業療法評価学実習Ⅰ	3	90	内海卓哉
作業療法評価学実習Ⅱ	1	45	石垣純子
作業療法評価学演習Ⅰ	1	30	島田和人
作業療法評価学演習Ⅱ	1	30	石澤正夫
作業療法評価学総合演習	2	60	島田和人、内海卓哉
作業療法治療学	2	60	島田和人
作業療法治療学実習Ⅰ	3	90	島田和人
作業療法治療学実習Ⅱ	2	60	石澤正夫
作業療法治療学実習Ⅲ	2	60	石澤正夫
作業療法治療学演習Ⅰ	3	90	島田和人、内海卓哉
作業療法治療学演習Ⅱ	2	60	石澤正夫
義肢装具学Ⅰ	1	30	石澤正夫
義肢装具学Ⅱ	1	30	鈴木竜平
日常生活活動学	2	60	内海卓哉、島田和人
日常生活活動学演習	3	90	内海卓哉
地域作業療法学	1	30	鈴木竜平
地域作業療法学演習	1	15	鈴木竜平
職業関連活動学	2	45	石澤正夫
作業療法見学実習	1	45	石垣純子
地域作業療法実習	3	135	内海卓哉
精神障害領域作業療法実習	2	90	内海卓哉
作業療法評価実習	7	315	作業療法学科全教員
総合臨床実習Ⅰ	9	405	作業療法学科全教員
総合臨床実習Ⅱ	9	405	作業療法学科全教員
合計	82	2895	